部類	地志
函號	二架 一四九
書名	桐南名勝志料
册數	二

一六

ル 3
3387
2

相南名勝志料

二巻　此ハ佐渡遠居の士
のあらはせるなり居をやく大磯といへりと海をも
せて深やけのいとまあるは雲ちかきさけれども
こよひこの海をはなさむるのはるかに見ゆるよし
ゆかしきかへりてかれはなれたる月ありうれしくいれ
の地もちかきところにて衰のうつりのはるはみのつゆり
なる一ところのにてかよはひかとわつらる間は昔とし

榎関図書
東京大学図書

門 ル3
號 3387
巻 2

早稲田大學圖書館
昭29.2.4受
蔵書

のまた人の情にみさりけるをまたは昔をしのふることも人の語
なれは国々の名所旧跡なとをたつね実物について
のちて都なとにしるせるものいと少なし今ある東京地なる
東京なとさへ昔を云ふ人の世は日にうつりかはりて伝はるも
ことさらやかましきまてなといふへきものは家まりにしのふ様もなかりし
の繁み写さるるものあまたありて地名今よりは又今のまま
さへ伝へ来りしされは鎌倉西朝府の昔をしのふよすかも

をやすまえて今のさまは昔をしのふ人の為になれり
名ところしるしありてのちは平安の世にいてたる千代の
風流ある事なる人のやうのことはのこり文すへて雅趣とする
の一語をみれはしるしとよりわすれぬ言葉にて
今の田野をみれは広さ所をなるを知るよりも地名の
くつされたるは昔を知るよすかなるとあるへきなれし

明治三十年十二月　御歌所寄人小出粲記

新編相模國風土記稿巻之三十九

村里部

淘綾郡巻之一

圖説

渡邊千秋藏書

本郡往昔ハ今ト異ニテ最廣カリシト見エ倭名鈔載ル所本郡ノ郷名ニ、中村、(今足柄上下ニ郡ニ跨カレリ)幡多、(今大住郡ノ属)金目(同上)等アリ、今皆他郡ニ隷セリ、是其證トスヘシ、又同書ニ載スル、大住郡ノ郷名高來ハ、今本郡中、高麗寺村ノ古名ナリトスル時ハ、彼郡中ノ地モ、又本郡ニ併入スト云シカ、但此事詳ナラス、(委シクハ高麗寺村

ノ條ニ辨ス、小田原北條氏割據ノ頃、國中ヲ三分シテ闔稱セシ時、當郡、及ヒ愛甲、大住ノ三郡ハ、中郡ト唱フ、又中郡ヲ大小ニ二分シテ唱ヘシ頃、本郡ハ、小中郡ト稱シ、大住郡ハ大中郡ト唱フ（天正中寺社ニ賜ヒシ御朱印ニモシカ見エタリ）古今ノ際、疆域沿革ノ事、古傳ナケレバ強テ知ルニ由ナシ、正保、元祿、両度改定ノ縮圖、及今考定ノ縮圖ヲ著シ聊正保已後ノ沿革ヲ示ス

縮圖ヲ著シ聊正保已後ノ沿革ヲ示ス

正保改定圖

正保改定圖

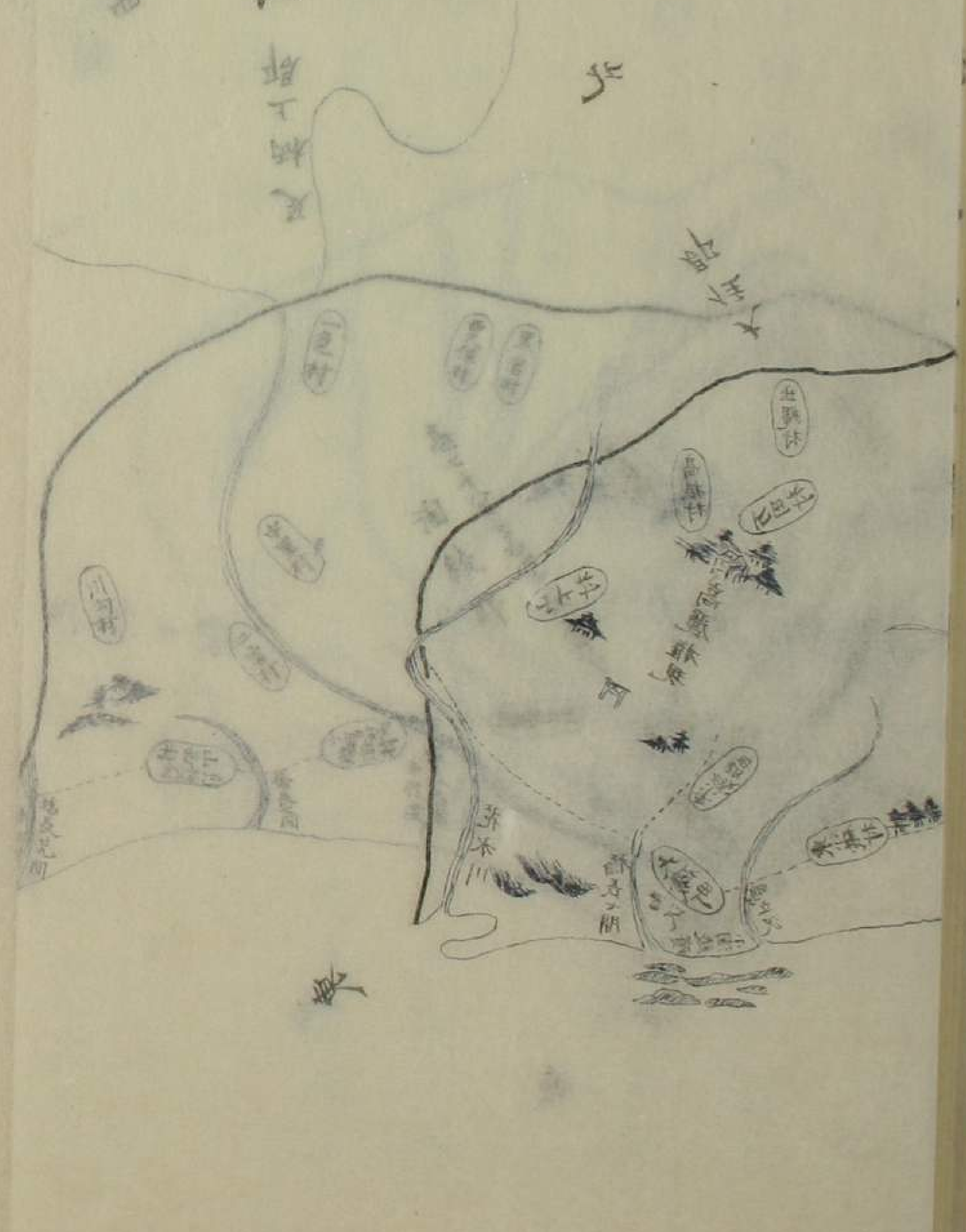
元禄改定圖

西
北
東
南
足柄上郡
足柄下郡
大住郡
淘綾郡
一色村
黒岩村
出縄村
高根村
万田村
山下村
高麗権現
大磯町
花水川
橋長七間

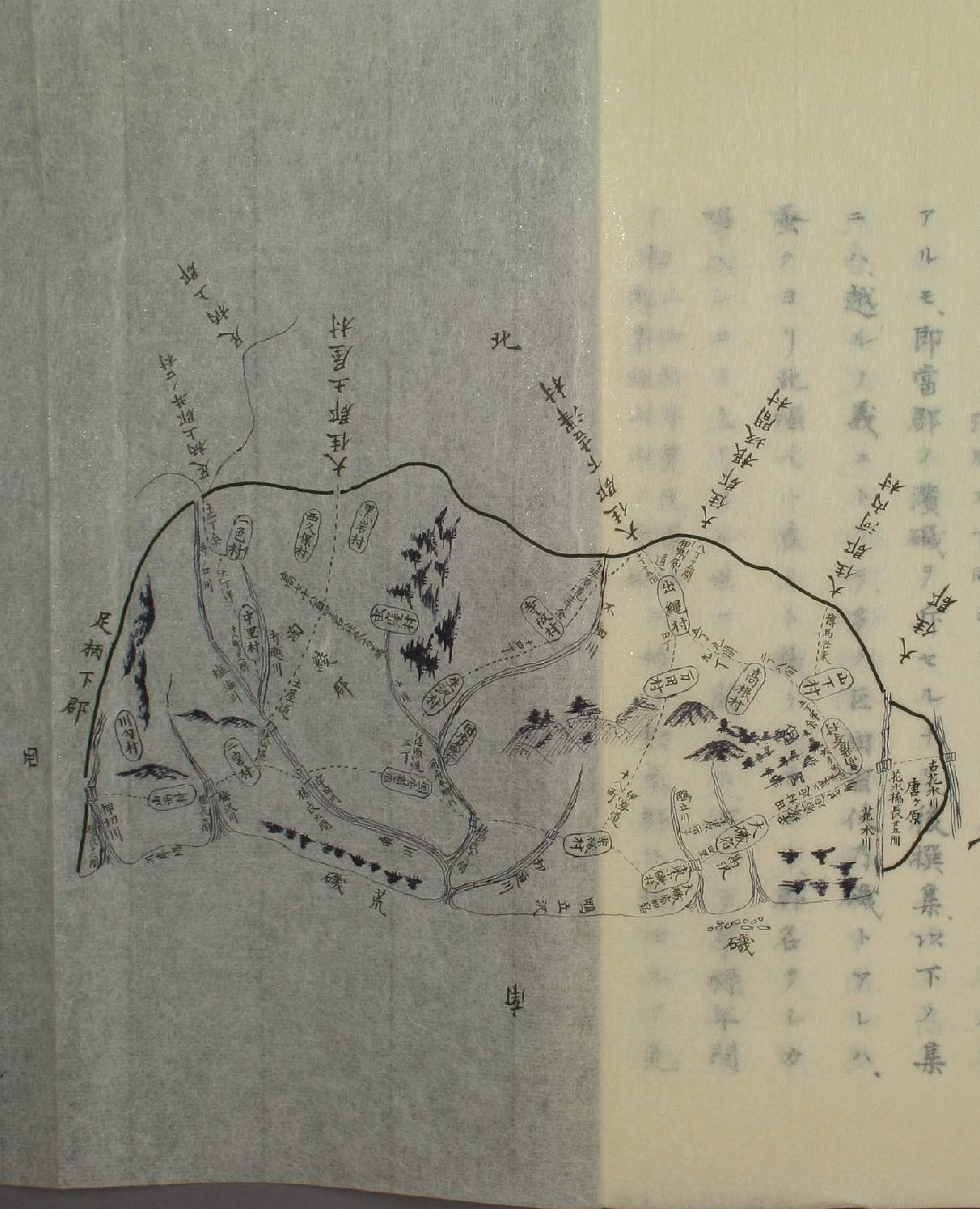
淘綾郡ハ國ノ南方海邊ニアリ、江戸日本橋ヨリ郡ノ東限大礒宿、及高麗寺村マデ、舊クハ餘綾ト書シ、余呂

今考定圖

元祿改定圖



淘綾郡ハ、國ノ南方海邊ニアリ、江戸日本橋ヨリ郡ノ東堺大礒宿、及高麗寺村マデ、舊クハ餘綾ト書シ、余呂伎ト唱フ、倭名鈔、國郡ノ部ニモ然記セリ、今ハ由留義ト呼ブ、何レノ頃ヨリカ云コトハ詳ニシ難シ、萬葉集ニ、余呂伎能濱、證歌、海ノ條ニ引處ス、下同シ古今集ニ、小余呂伎乃礒トアルモ、即當郡ノ濱礒ヲ[illegible]撰集以下ノ集ニハ、越ルノ義ニ[illegible]トアレハ、[illegible]



今考定圖

淘綾郡ハ、國ノ南方海邊ニアリ、江戸日本橋ヨリ郡ノ東境大礒宿、及高麗寺村マデ、舊クハ餘綾ト書シ、余呂伎ト唱フ、倭名鈔、國郡ノ部ニモ然記セリ、今ハ由留幾ト呼フ、何レノ頃ヨリト云コト、詳ニシ難シ、萬葉集ニ、余呂伎能濱、證歌、海ノ條ニ引用ス、下同シ古今集ニ、小余呂伎乃礒トアルモ、即當郡ノ濱礒ヲ斥セルナリ、後撰集以下ノ集ニハ、越ルノ義ニトリテ、多ク臣由留伎乃礒トアレハ、蚤クヨリ此唱ヘハ在シト識ラル、サレト、郡名ヲシカ唱ヘシコト、上リタル世ニハ聞エス、下リテ享祿年間ノ物、山西村、等覺院、藥師ノ像、享祿五年ノ背銘ニ、始テ動木郡ト記セルヲ見

ル、今淘綾ノ文字ヲ宛ツルコトハ、最近世ノ所爲ナル事、論スヘカラス、當郡ハ、古クヨリ、東海道驛路ノ係ル所ニシテ、往昔郡中傳馬五匹ヲ出スヲ定額トセシ事、延喜兵部式ニ見ユ、曰、相模國傳馬、足上、餘綾、高座、各五匹云々 郡中、南ハ總テ海ニ瀕シテ平坦ナリ、北ハ山ヲ負ヒ、西ヘ漸々高シ、闔郡ノ廣袤、東西ヘ長ク二里二十町餘ニ至リ、東方、大磯宿、及ヒ高麗寺村ヨリ、西方、川勾村迄ノ里程ナリ 南北ハ狹ク、平均大抵一里許モアルヘシ、其四至、東ヨリ北ヘ廻リテ、大住郡ニ邊シ、又足柄上郡ノ地モ、僅ニ係レリ、西ハ足柄下郡ニ堺ヒ、南ハ都テ海ニ添リ、水田少ク、二百五十八町八段四畝二十七歩 陸田多シ、大百四町四段七畝十一歩四分五厘 土性ハ多ク、眞土、赤土ノ二種ニテ、海邊ニ近キハ、砂礫錯レリ、用水ニハ、井、口川ノ下流ヲ引テ、耕穡スル村四村、中里、一色、二宮、國府新宿 又大住郡ヨリ沃ク、五箇村組合堰ノ餘水ヲ、灌漑スル村二村、山下、萬田、 其餘ノ諸村ハ、天水、及ヒ山間ノ涌泉等ヲ用ヰル、農間ノ餘資、山寄ノ村ハ男ハ薪ヲ採リ、蓬ヲ織リ、女ハ系ヲ操リ、綿布ヲ織ル、海邊ノ諸村ハ、專漁釣ヲナシ、驛路ニ連住スル家、便宜ニ依テ、或ハ旅客ヲ止宿セシメ、或ハ是カ爲ニ酒食諸品ヲ鬻クモアリ、サレト富饒ノ戸口乏シ、村數、正保ノ改ニ、十九、元祿ノ改ニ、二ヲ増加シ、大磯加宿、東小磯村、

同所新田ヲ、二村トシテ数ニ入一ヲ減シテ、鹽海村ヲ、二ノ宮村ニ併入ス凡テ二十、今ハ又一ヲ増シ、高麗寺村二ヲ減ス加宿東小磯、同所新田ヲ併セ、共ニ本宿ニ隷ス、故ニ又十、九村トナレリ、本郡ノ高、正保ノ改ニ、七千五百三十七石九斗七升五合、元禄ニ至リテ、七千八百三十石四斗二升五合一杓、前ニ増加スルコト、二百九十二石四斗五升一杓、後又十二石六斗六升六杓六撮ヲ増加シテ、今高七千八百四十三石八升五合七杓六撮ニ至レリ、此餘寺社領、二百六十七石一斗、寺社除地、二十八石四斗餘外ニ、段別ノミニテ、高ニ入サルモノ、八十町五段一畝三歩餘アリ大磯宿定助郷ヲ勤ムル村十三、山下、高根、萬田、西小磯、國府新宿、二ノ宮、出縄、生澤、出窪、山

西、一色、中里、寺坂、合高五千五百五十九石七斗二升五合又加助郷ヲ勤ムル村一、西、久保村高二十八石小田原宿、加助郷ヲ勤ル村二、川匂、黒岩、二村、高合二百三石アリ、東海道往還、海邊ノ諸村ヲ歴テ通ス、道程二里二十町餘、郡中ヲ通スル道程ナリ、其地域ハ、高麗寺、大磯、東小磯、西小磯、國府本郷、國府新宿、二ノ宮、山西、川匂、等ノ村ニ係レリ、道幅三間ヨリ五間ニ至ル小往還五條、一ハ高麗寺村ヨリ北ニ入リ、以下ノ往来、何レモ海道ヨリ北ニ分折セリ山下、高根二村ノ堺ヲ通シ、萬田村ヲ經出縄村ニ入、西折シテ、大住郡、下吉澤村ニ達ス行程三十二町半餘、幅八九尺波多野道ト唱フ、一ハ西小磯村ヨリイリ、萬田村ヲ經、出縄村ニテ前路ニ合シ、北折シテ大住郡、根坂間村ニ達ス、行程三十町餘、幅六尺許一ハ國府新宿ヨリ

分レ、生澤、寺坂、二村ヲ經、是モ大住郡、下吉澤村ニ達ス、行程三十町餘、幅八尺許共ニ伊勢原道ト云、一ハ二ノ宮村ヨリ分レ、中里、一色、ノ二村ヲ通シ、足柄上郡、井ノ口村ニ出、行程一里餘、幅六尺、大山道ト云リ、或ハ波多野道トモ云フ一ハ二ノ宮村前路ヨリ分レ、虫窪村ヲ歴テ、黒岩、西ノ久保、二村ノ境ヲ通シ、大住郡、土屋村ニ達ス、行程一里許、幅六尺、此餘小徑岐路等アレト畧ス、

古領主ノ沿革詳ナラス、治承ノ頃、中村庄司宗平ノ子、四郎友平、二宮四郎ト稱シ、夫ヨリシテ二宮ヲ稱スルモノ、東鑑ニ往々見ユ、是等郡中ニ土着シテ、傳領セシナラン、今モ闔郡、總テ二ノ宮庄ヲ唱フ、世下リテ、小田原北條氏分國ノ頃ハ、其家人等ニ配當シ、天正十八年、關東御分國ノ後ハ、總テ御料トナリ、往々諸侯及ヒ旗下ノ士ニ割賜ヒシ事ハ、各村ニ詳載セリ、當郡風俗、他ニ異ナル事ナシ、海濱ノ村々ハ、漁獵運漕ノ為、都下ノ商賈ト交リ、海道ニ連居スル家ハ、常ニ餘國ノ人民、多ク來住シテ、是ニ習熟ナスカ故、自然古昔ノ風俗ヲ失ヘリ

倭名鈔所載合郷七、

伊蘇、唱ヲ註セス、按スルニ、郡中大磯、小磯等ノ地、蓋是ナラン、

餘綾　與呂木ト註ス、今何レト斥スヘキ地ナシ、但シ郡名是ヨリ起リシ地ナレハ、必郡中ニテ、蚤ク村落ヲナシ、宗トアルヘキ地ナリシト覺ユ、因テ按スルニ、國府本郷村、同新宿ノ地、舊ク府廳アリシ所ト識ルレハ、彼邉ノ古名ナルヘキ歟、猶考フヘシ、古國府ノ事、建置沿革、並ニ國府本郷村ノ條、併セ見ルヘシ

霜見、唱ヲ註セス、サレト志毛美ト唱フヘキナリ、二ノ宮村小名ニ鹽海アリ、近キ頃マテ村名ニ呼ヘリ、即是霜見ノ轉訛ナリ二ノ宮村、小名ノ條下ニ詳ナリ

磯長、是モ唱ヲ註セサレト、志奈賀ト唱フヘシ、何レノ地ト斥シ難ケレト、是モ海瀕ニ寄レル地ナリ、國造本記ニ、師長國造ノ名アリ、是　成務帝ノ御宇、意鷲意彌命ヲモテ、定サセ賜ヒシト云、此師長トアルモノ、即此地ヲ云ヘルニテ、最舊ク聞エシ地名ナリ、按スルニ、國造本紀ハ、全ク後人擬作セシモノニテ、最信用スヘキモノナラネト、其文體延喜已後ノモノトモ見エサレハ、聊考據トナルヘキ事モアリ、又按スルニ、彼本紀ノ旨ニヨリ、往古ハ當國、相武、師長ト分レ、二國タリシト心得ルモノアレト、ソハ僻コトナリ、委シクハ建置沿革ニ辨ス、併セ考フヘシ

中村、此郷名、今足柄上下二郡ニ殘レリ、治承ノ頃ハ、庄名ニモ唱ヘシナリ、平宗平庄司タリ、事ハ、足柄下郡

（中村原ノ條ニ載、）

幡多、波多ト唱ヘシナラン、今大住郡ニ、波多野庄アリ、是其遺名ナルヘシ、

金目 是モ大住郡中、波多野庄近隣ノ村名ニ、金目ト書シ、加奈井ト呼ヘルアリ、是其遺名ナルヘシ、

以上ノ三郷、今皆他郷ニ隷スルヲ見レハ、後世郡界狭リシ事知ルヘシ、

今所唱合郷二、

二ノ宮、（爾延美也、）川勾村一村、此郷名ヲ唱フ、

山下、（也末之太、）山下、高根、萬田ノ三村此郷ニ属ス、

今所唱庄名一、

二ノ宮 闔郡十九村、總テ此庄名ヲ唱フ、

海 郡南ニアリ、東方、大住郡堺ヨリ、西方、足柄下郡堺迄、縁海長、三里餘、浪除ノ堤防、一所ヲ設ク、（長二百九十間、高五尺、鋪一丈六尺、）獲ル所ノ魚類、及ヒ廻船漁艇等ノコトハ、海邊ニ属スル村々ニ辨スレハ、爰ニ畧ス、古クハ、此海邊ニ、唐濱ノ唱ヘアリ豆州、走湯山縁起ニ見ユ、（曰、人王十六代、應神天皇二年辛卯四月、東夷相摸國、唐濱磯部、海濱現二一圓鏡一、徑三尺有餘云々、）是ハ、唐ヶ原ノ近キ磯邊ヲヤ唱ヘシナラン、（唐ヶ原ノ條併セ見ルヘシ、）蚤クヨリ此稱呼ヲ失ス、凡此海岸、大磯小磯等ノ名義

ノ如ク、巖石多ク、浪荒クシテ、船カヽリアシク潮干ナシ、汀砂色麗シク鮮明ニシテ愛スヘク、風光他ニ殊ナリ、サレハ、古クヨリ名苑ニ入テ、萬葉集ニ、餘呂伎能波末ト見エ、又世々ノ歌集ニ、小餘呂伎ノ磯トモアル、即此海邊ヲ云ヘルナリ、今モ其所ニ因テ、小餘綾ノ浦、或ハ小餘綾ノ磯淘綾ノ浦ナト呼ヘリ、按スルニ、鎌倉腰越村海岸、八王子社地ヲモ、古由留義ト呼リ、鎌倉志ニモ、彼地ト定メ、當國名所、小余呂伎磯モ是邊ナリ、或ハ大磯ノ濱ヲモ云ト記スレト、全ク當所ヲ得タリトスヘシト記セシハ、全訛レリ然シテ、宗祇カ名所方角抄ニハ、大磯、小磯ノ海濱ナル由、定メ云ヘリ、日、大磯小磯トテ中間五六町アリ、南ハ汀ナリ、北ハ野ナリ、富士ハ乾ノ方ニ見エタリ、ヨロキノ濱、コヨロキノ磯ナト、云名所アリ、但小呂與伎ノ磯ハ、大磯ノ邊ヲ云ナリ云々中古、此海道ヲ經歴セシ人々モ、多クハ大磯宿ノ海邊ヲノミ然稱セリ、今其一二ヲ擧シニ、文明十二年、太田持資入道道灌上洛ノ路次、大磯宿ニテ、此邊ノ詠歌アリ、平安紀行曰、大磯ニ至リ、コユルキノ磯ニテ、浦風ニマタシキ秋ハ小ユルキノ磯五ナラシ今日ヤ暮ナン天文十四年、宗牧、大磯宿、笠原玄蕃助カ許ニ宿リシ夜、コユルキノ磯ノ枕ト詠セシ事アリ東國紀行曰、コユルキノ磯モ近ク見ユ、今夜旅泊ハ、此磯枕思ヒ出ナルヘシ、旅宿ハ山陰ノ小庵、花ノ木植テ必アルサマ、殊サラ咲ミタレテ、與テ添タリ、又ヤミン花ノ波サヘコユルキノ磯ノ枕ノ春ノ曙、マコトニ忘レカタキタクヒナルヘシ、朝飯ノシタテ、何ヲカナトアルシ肴モトメテ、コヨロキノイソ

キアリキシサマ中川ノ宿思ヒ出ラレタリ東國陣道記ニモ細川幽齋、大磯驛ニテ、此磯ノ所在ヲ尋子、詠吟セシ事見エタリ日、五月十一日、鎌倉見物ノ為マカリケル道ニ、大磯トイフ所ニ屢ト、マリテ、コヨロキノ磯ヲ、在所ノ人ニ尋ケルニ、此所ノ由答ヘ侍ルニ、釣舟ノ多ク浮ミテ見エケレハ、見ルカ内ニ磯ノ浪分コヨロキノ沖ニ出タル蜑ノ釣フ子、サレト舊クハ、一所ニ限レル名ニハアラテ、總テ郡中ノ海濱ヲ通稱セシナルヘシ、當國名所ノ一トシテ、歴代歌集、及ヒ古人ノ詠集耳目ニ觸ル、物多シ、今其大概ヲ左ニ輯錄ス、

東歌

相摸治乃（サカミチノ）、余呂伎能波麻乃（ヨロキノハマノ）、麻奈胡奈須（マナコナス）、兒良久可（コラクカ）奈之久（ナシク）、於毛波流留可毛（オモハルルカモ）、萬葉集○按スルニ、相摸國歌ノ一ナリ、作者ヲ注セス

敏行朝臣

玉タレノコカメヤイツラ小與呂木ノ磯ノ波分沖ニ出ニケリ、古今集、下同

讀人不詳

小與呂木ノ磯立ナラシ磯菜摘ムメサシヌ（ラ）スナ沖ニヲレ波、

躬恒

君ヲ思フ心ハ人ニコユルキノ磯ノ玉藻ヤ今モカラマシ、後撰集○古今六帖ニハ、忠岑カ詠トシ、末ノ二句ヲ、磯ニヤ出テ玉モ刈マシニ作ル、

小貳命婦

如何ニシテ今日ヲ暮サンコユルキノイソキ出テモカヒナカリケリ、拾遺集、下同

讀人不詳

コユルキノイソキテ來ツルカヒモナク又コソツタテレ澳ツ白波、

右近

トフ事ヲ待ニ月日ハコユルキノ磯ニヤ出テイマハウラミン、後拾遺集、

源顯國朝臣

コユルキノイソキテ逢シカヒモナク波ヨリコスト聞ハマコトカ、金葉集、

讀人不詳

程モナク五十ノ波モユルルキノイツキナレタル歳ノ暮哉、新後撰集、下同

前内大臣頼綱

コユルキノ磯邊ニ風ヤ立ヌランイハホニモ咲花ノ白波、

前右兵衛督教定

月日ノミタ、徒ニコユルキノイソクニ付テ暮ル

ル年ナミ、續千載集、下同

小野小町

陸奥ニ世ヲ浮島モ有ト云ハ關コユルキノイソカサラナム、詞書ニ、陸奥ニ罷リケル、人奥ニニ遺シケルトアリ

讀人不詳

浦風ヤ吹マサルランコユルキノ磯ノ波間ニ千鳥鳴ナリ、

從三位行能

麁玉ノ今年モカクテコユルキノ五十ノ波ヲ袖ニカケツヽ、

欣子内親王

徒ニ又此度モコユルキノイソカテ法ノ舟ニヲクルナ、新拾遺集

前内大臣

風吹ハ波モ岩根ヲコユルキノ磯タチナラシ千鳥鳴ナリ、新葉集

能宣

鶴モ任松モ光タルコユルキノ磯ノ蜑サヘ千代ヲコソ祈レ、夫木集、下同、

若和布刈ル蜑ヤヨルランコユルキノイソカシク

ノミ漕カヨフ舟、

為相

岩カ子ノ磯ノ初草下萌テ寄スレハ青キ小與呂木
ノ浪、

宮内卿

ヤ、若和布カリツメ臥ノ袖ノ上ニ今日年ナミモ
コエルキノ磯、

參議雅經

イツマテカ松ノシツエニコエルキノ磯路ニカ、
ル浪モウラメシ、

隆祐

コエルキノ磯山櫻咲ニケリ沖ツ波間ニ泊ル舟人

後九條内大臣

コエルキノ磯ノ波分花ソ散ル今日行春ハ沖ニ出
ニケリ、

土御門内大臣

コエルキノ磯ノ松風音スレハタ波千鳥立サワク
ナリ

行家

コエルキノ磯ノ浪分見渡セハ目ニ近カラヌ澳ツ

島哉、

俊恵法師
遙々ト波路ヲ分テコユルキノイソクト人ハシラズヤ有ケン、林葉和歌集、

西行法師
風アラキ磯ニカヽレル海人ハツナガヌ船ノ心地コソスレ 山家集

兼宗卿
待ワタル都ノ人ニコユルキノイソク浪チトイカテ知ラセン千五百番歌合、

中宮権大夫
妹タニモ待トシ聞ハコユルキノイソク舟出モウレシカラマシ、六百番歌合、

重之
コユルキノ磯ノ名ノリツナノラ子ト袖計ヲソサクリ知リタル 家集、下詞、
コユルキノ磯ノ若和布モ刈ヌ身ハ沖ノ小浪ヤ誰ニヨスラン詞書ニ、相摸ニテトアリ

信明
風吹ハ玉モリ出ス白浪ノヨセストモナキコユルキノ磯

元眞
コユルキノ渚ニ風ノ吹シカラクタモ残サス波モ

寄ケリ、

忠見

コユルキノ蜑ハアサリニヤツレツヽ如何ナル時

カナマメカルラン、

兼好

コヨロキノ磯ヨリ遠クヒクシホニ浮ヘル月ハ沖

ニ出ニケリ

慈鎮

都ヘト思ヒ立ヨリ小ユルキノイソク日數モ猶積

ル哉拾玉集、

家隆

沖ツ風吹クル波ニコユルキノ磯邊ノ千鳥立居啼

ナリ、壬二集、下同

小與呂木ノ磯タチナラシ寄浪ノヨルヘモ見エス

夕暗ノ空、

鴨長明

鷗居ル岩根白波コユルキノイソク心ヲ止メテソ

見ル、歌枕名寄、下同

兼詮

若和布刈ル春ヤキヌランコヨロキノ磯ノ蜑人波

ニマシレリ、

北條左京大夫氏康

昨日タチ今日コユルキノ磯ノ浪イツキテ行ンタ暮ノ道、武藏野紀記、

北條左京大夫氏政

秋モ半我身モ半コユルキノイソカヌ年ノナト積ルラン、北條五代記

宗祇

霧迷フ小餘綾ノ磯ノ歸ルサニ、名所千句

宗長

朝霧ノイツクコユルキ磯ノ松、東路ノ土產

船着場、山西村海濱、字押切ニアリ、廻船其外貢米着岸ノ地ナリ、按スルニ、大磯宿地福寺ノ山號ヲ、着船トト呼ヒ、又同寺藏天文二十三年古河公方義氏ヨリ、同寺ヘ與ヘシ文書ニ、相撲國大磯鄕、舟付談所云々トアリ、是ニ據レハ、元大磯海濱ニアリシト見ユ、其後今ノ地ニ轉セシニヤ、

花水川、波奈美頭可波 大住郡平塚宿ヨリ、郡中山下村ニ入、高麗寺、大磯二村ノ地ヲ流レテ海ニ入ル、水路十七町許、是ハ、郡中ヲ流ル、川大ナリ、以下是ニ倣ヘ、幅二十五間 堤アリ 高七尺、敷二間、馬踏

△長者林（天守志那波座止）此林ハ巨摩山ノ下ニ併存セシ山下ニ若ノ庭園ノ部ニシテ海ヲ望ミ晴日ニハ大島ノ白煙ヲ見ル大磯小磯中絶景ニテ北條氏等執権ノ頃時々遊覧セシト云フ又別七町三反歩許（世行江 所寄地）言從行ノ時久シク宿泊シ歌数多詠マレタルヨリ東北回國

大尺

此川ハ、寶永六年、新ニ堀割シ水路ナリ、松平豊後守宗俊、此役ヲ勤ム、

△古花水川、布流波奈美頭可波是古ヨリ、其名聞エシ花水川ナリ、此川名ハ、昔河邊ニ櫻樹多クアリテ、流水花ヲ浮ヘルヨリ起レリト云、千種日記ニモ、其事ヲ載セタリ、日、花水ノ橋ヲ渡ル、昔此川ノ上ニ、櫻多クアリテ、花散頃ハ、爰ニ流レ侍ルトテ、名付タルトナン、大住郡平塚宿ト、本郡高麗寺村、及ヒ大磯宿ノ境ヲ流レ、海ニ入、文明十八年、聖護院准后道興、此川ヲ渡ラレシ時、詠歌アリ、回國雜記曰、花水川トイヘル川ヲ渡リテ、咲ト見エ散ト見エルヤ風渡ル花水川ノ浪ノ白玉天文十四年、宗牧モ、此川名ヲ愛シテ

記ニアリ「風アマキ磯ニカヽルアマ人ハ汐ナガヌ船ノ心地コソスレ」ナドモ其ノ中ナリ

詠吟ス、東國紀行日、花水川トナン、風流ナル名モ聞捨カタクテ、駒トメテ暫時取飼陰モナシ花水川ノ波ノ下草、此項ハ、川幅モ今ト異ニテ、最廣カリシカ、幅二十五間ニ及ヘリト云、寶永六年、水路改リ、前ノ新川疏鑿アリシヨリ、即古川ト唱ヘ、小流トナレリ、水路凡十九町許、幅二間

國府本郷川、古布保無加宇可波○不動川附大住郡吉澤村ガンマン川ト呼フ、ヨリ、郡中寺坂村ニ入テ、不動川ト呼ヒ、生澤村此地ニテ、出窪村ヨリ来ル一流合セリ、ヲ經、國府本郷村ニ入リ、即此川名ヲ得、海道ヲ斜通シ、直ニ海ニ沃ク、水路凡十三町半餘、幅二間餘、

井ノ口川、為廼久知可波○塩海川、宇田川、南川附　大住郡五分一村堂ヶ谷川ト呼ヘリ、ヨリ、郡中一色村ニ流入、此名ヲ得、按スルニ、水源足柄上郡井ノ口村ヨリ發スルカ故ナリ中里村ニテ鹽海川ト唱ヘ、二宮、國府新宿、二村ノ境ヲ流レ、宇田川ト呼フ、夫ヨリ國府本郷村ニ沃テ、南川ト呼ヒ、村内海邊ニテ、前川ニ合ス、按スルニ、正保及元祿國圖ニ、二川落合ノ邊ニ、葛川ト記スレト、今傳ヘス水路凡二里許、幅三間許、一色、中里、二ノ宮、國府新宿、四村ノ田間ニ灌漑ス、

打越川、宇知古志可波、　一色村北方字杉ヶ入ヨリ涌出シ、同小名打越ヲ流レ、川名ヲ得、中里二ノ宮、兩村ノ境ニテ、前川ニ合ス、水路十五町餘、幅六尺ヨリ二間ニ及フ

押切川於志幾利可波　足柄下郡中村原ヨリ、郡中川匂村ニ入リ、夫ヨリ古ハ足柄下郡前川村ニ達セシカ、中古水路革リシ後ハ、直ニ山西村ニ沃キ、南方ニテ海ニ入、水路十五町許、幅二十間程、

小川遠可波、　源、出窪村字谷戸山、シケ澤山ノ二所ヨリ湧出シ、二流合シテ、國府新宿ニ至テ川名ヲ得、生澤村ヲ流レ、國府本郷村ニ至リ、國府本郷川ニ合ス、

五ヶ村用水、　大住郡廣川村ニテ、金目川ヲ堰上ケ、同村、及ヒ公所、根坂間、河内、本郡山下、五村ノ用水トセリ、幅九尺、末ニ至リテ三尺許、此水路ヨリ分派シテ萬田村用水フ助水トモナス、

萬年堰、（満或稱年世儀）中里村ヨリ、宇田川ヲ堰入、同村、及ヒ二ノ宮村ノ用水トナセリ、（慶長中、縣令萬年七郎右衛門高頼、堰割ノ功ヲ發セシカハ名トス、）

唐ヶ原、（或ハ諸越トモ書セリ）大磯宿海邊ヨリ、高麗寺村、及ヒ大住郡ノ海邊ニ亘テ此名アリ、（正保國圖ニハ、大住郡平塚宿ノ海瀕ニ、唐ヶ原ト記セリ）古ハ廣ク他郡ニワタリテ、此名アリシト見エ、更級日記ニ、モロコシカ原ト云所モ、スナコイミシウ白キヲ、二三日ユク、夏ハ大和撫子ノ、濃ク薄ク、錦ヲヒケルヤウニナン咲タル、云々ト記セリ、（鎌倉志ニハ、片瀬川ノ東ノ原ヲ云ト記スレト、恐クハ非ナラン）名義ハ、往古、東國七州ニ、高麗人散居セリ、本州モ其一ナリ、（續日本紀、霊亀二年ノ條ニ見エ、高麗寺村併セ見ルヘシ、）此邊、其居住ノ地ナリシ故、此名起リシナラン、又近キ、磯邊ヲ、唐ヶ濱（豆州走湯山縁起ニ見エ、海ノ條ニ引用ス、）トモ云シトソ、是等同シ因ナリ、サテ、此原古クヨリ名苑ニ入テ、古人ノ吟詠、粗所見アリ、左ニ採録ス、

藤原忠房

名ニシオハヽ虎ヤフスラン東路ニアリト云ナル
モロコシカ原、（堀川百首）

作者不詳

遥カナル中コソウケレ夢ナラテ遠ク見ニケリモ

ロコシノ原、懐中抄、

マトロマンヨナカニシハシムハ玉ノ夢路ソ近キ

鴨長明

モロコシノ原、歌枕名寄

カラ大和色々ニ織ル錦カナ撫子咲ル諸越ノ原、和歌手習

産物、

砂利、大磯宿海濱ノ産、其種類、五色或ハ中栗、白斑、黒小砂利、等アリ、時々余アリテ公ニ納ム

新編相模國風土記稿巻之四

村里部

淘綾郡巻之二

二ノ宮庄

二ノ宮村爾延美也年良 江戸ヨリ行程十七里半、二ノ宮庄ノ原村ニシテ、闔郡十九村、都テ此庄ニ屬セリ、當村或ハ二ノ宮本郷或ハ古淘綾里トモ唱フト云フ、永録二年八月、當所六月關ノ税銭ヲ以テ、毎歳大磯宿地福寺客殿修理料ニ宛ヘキ由、北條氏ヨリ令セシコトアリ、大磯宿地福寺所蔵文書ニ據ル、其全文彼寺ノ條ニ引用ス按スルニ、六月關ノコト傳ヲ失フ 東西十五町餘

南北十八町、東、國府新宿、西、山西、中里ニ村、南海、北出窪、中里ニ村、民戸百八十、今米倉丹後守昌壽、及ヒ曾我伊豫守助順、小笠原若狹守信名、等ガ知ル所ナリ、古領主ノ遷替ハ總テ傳ヲ失ヘリ、按ズルニ、慶長ノ頃ハ御料ニシテ、萬年七郎右衛門正頼支配セシト見エ、コトハ大應寺ノ條ニ辨ス、寛文ノ頃ハ、板倉内膳正重短カ領主タリシコト、同寺妙見社ノ棟札ニ記セリ、後一旦御料ニ復シ、寛永二年米倉、安永七年曾我、文化八年小笠原ノ三氏ニ裂賜ハル、検地ハ、延寶五年、成瀬五左衛門重治改ム、東海道往還、南方海瀬ヲ通ス幅三間許大山道東北ニ貫ク幅九尺北道ノ中程ニ岐路アリ、土屋道ト呼ヘリ、

高札塲三

小名 鹽海、志保美○正保ノ改ニハ別村トス、元禄ノ改ニハ二ノ宮村ノ内ト傍記シテ、村高モ本村ニ合ス、其後村内ニ併入シテ、全ク小名トナリシ年代詳ナラス、古此海濱ニテ鹽ヲ製造ス、依テ此名アリ、今其事廢ストイヘトモ、永銭ハ舊ニ依テ出セリト云、按スルニ、倭名鈔當郡ノ郷名ニ霜見アリ蓋其遺名ナルヘシ、諸記多クハ海ヲ見ニ作ル、古ハ此所ニテ、人馬ノ繼立ヲナセシト見エ、永録元年海道宿次記ニ、酒匂、郡水、志保見、平塚、云々トアリ、又藤原為相卿、海道宿次百首ノ歌ニ、シホミ、　暮テハヤ鹽満ヌラシ浦々ニ釣船ヨセテオル、蜑人、東海道名所記ニ鹽見、又ハ古屋ノ宮ヲ名ツク云々、行囊抄ニ鹽見村、或ハ古屋共云ト記スレト、古屋ノ唱今傳ヲ失ヒ詳ナラス、原田、妙見、

山 乾方ニアリ、田代山、登ニ町正善山、登五町許、正善廢寺ノ所在ナリ、依テ名トス山王臺、登ニ町等ノ名アリ、

坂 北方ニアリ、登五町許、土屋道係ル所ナリ、

林四 三ハ松林、一ハ竹林ナリ、

海　南方ニアリ、漁船六艘ヲ置、獲所ノ魚、鮪、鰹、比目魚、鯖ノ類多シ、古ヘ塩田アリシ事ハ、小名ノ條ニ註記ス

宇田川　村ノ中央ヲ流レ、國府新宿ニ達ス幅三間許、中里村塩海川ノ下流ナリ、田間ノ用水トス、圦樋ヲ設ク、東海道ノ係ル所、土橋長六間、ヲ架ス、宇田川土橋ト稱ス、舊クハ塩海橋ト呼シトソ、又倉田橋ト唱フル板橋アリ、

浅間社　村民持、下同シ、

天神社

守宮神社　村持、下同シ、

天王社二

稲荷社二　一ハ村民持、一ハ村持、

秋葉社　本地佛十一面觀音ヲ置、神應院持

妙見社　寛文九年再建ノ棟札アリ、大應寺持、

大應寺　妙見山盛唇庵ト號ス、曹洞宗、豆州加茂郡宮上村最勝院末、開山麟正、本寺五世天文八年三月廿九日寂、天文七年正月、高適齋道應ト云者、寺地ヲ寄附ス、所藏文書曰、相州二ノ宮庄内、藏屋敷事、為御會下地形、御所望候間進之候、然上、寺家廻之山、并屋敷筆之事、至于末代不可有相違候、仍證文如件天文七年正月十八日、盛唇庵侍司、道應華押、表書ニ高適齋ト記セリ、按スルニ、寺ニテハ大森氏ト傳レド系譜所見ナシ、

永祿元年十月、北條氏政伐木禁制ノ捉書ヲ出セリ、日、於寺中竹木切取事、右背此旨者有之者、急度可被申上候、仍如件、永祿元年十月九日大應寺、氏政華押、

天正十九年十石ノ御朱印ヲ賜フ、後當國ノ縣令、万年七郎右衛門高頼、按スルニ、万年家傳、及ヒ寺傳、共ニ重頼ニ作ル、今寛永譜ニ從ス、法名万歳院泰應成安ト云、家傳寺傳共ニ慶長十一年六月廿一日死スト云ヘト、寛永譜ニ據ハ、時代合セス、是ハ高頼カ父七郎右衛門正頼カ歿年ニシテ、是年六十六ニテ死スト記シ、高頼カ歿年ハ脱ス、又按スルニ、父子共ニ當時本州ノ縣令タリシ事、寛永譜ニ見エタレハ、中興開基高頼トスルハ、寺傳ノ訛ニテ、恐ラクハ正頼ナルモ識ヘカラス修造ヲ加フ、依テ中興開基ト稱セリ、本尊釋迦、元録二年、万年佐左衛門宗頼寄附ス

寺寶

古文書三通内二通ハ前ニ注記セリ、餘ハ北條氏政ノ書翰ナリ、曰為孟春之祝儀三種給候、珍重候、猶藤田大藏丞可申候、恐々謹言、正月十六日、大應寺、氏政華押、

鐘樓　元祿三年ノ鐘ヲカク、

天神社　稲荷社　五社太神宮

龍澤寺　天寧山ト號ス、曹洞宗、小田原一町田町、寶安寺末、開山圓佐、本寺四世、元和七年七月十九日歿、本尊釋迦、長一尺二寸　脇立文殊普賢ヲ置、寺領七石三斗ノ御朱印ハ、慶安二年賜フ、

衆寮

鐘樓　鐘ハ元祿七年ノ鑄造ナリ、

鎮守社　五社ヲ合祠ス、祭神詳ナラス

辨天社

善光寺　光明山ト號ス、曹洞宗（大應寺末）開山舜桐（本寺五世、寛永四年五月十二日歿）、本尊ハ、信州善光寺如来ノ摸像ヲ置

八幡宮

知足寺　塩海山花月院ト號ス浄土宗、（京知恩院末、）相傳テ、當寺ハ曩昔、二ノ宮彌太郎朝定、（東鑑、曽我物語等、太郎朝忠ニ作レリ、）カ居蹟ニシテ、建久ノ頃、朝忠ノ後室花月尼、（河津三郎祐泰カ女ト云、）夫朝定、及ヒ曽我兄弟等カ為ニ、一宇ヲ創シ、冥福ヲ修セシト云、享禄ノ頃ニ至リ、然譽恵公、（永禄三年八月三日寂ス、）舊蹤ヲ追慕シテ中興ス、本尊彌陀、（長二尺七寸恵心作、外ニ長一尺二寸ノ同作ヲ内佛トス）慶安二年、五石六斗ノ御朱印ヲ賜ハレリ、

寺寶

鞍一口、（曽我兄弟ノ遺物ト傳フ、尤信シカタシ）

鐘樓　鐘ハ延享三年ノ鑄造ナリ、

辨天社

二ノ宮夫婦、曽我兄弟碑、　域外少許ヲ隔テ山間ニアリ、四基並ヒ建リ、（一ハ宗徳院殿義譽興仁知信大居士、一ハ光玉院殿盛譽花月二宮大姉、一ハ前太守曽我助十郎祐成、峯巖良雪大居士、一ハ前太守曽我助五郎時宗、士山良富大居士ト彫ル）

元禄中、七世檀秀再建セリト云、碑銘アレト後世ノ物ナレハ省ケリ

東光院 瑠璃山ト號ス前寺末、本尊薬師長一尺二寸、行基作、ヲ安シ、十二神彌陀ノ像ヲ置、

稲荷社

曉明院 大圓山ト號ス、淨土宗、京黒谷光明寺末本尊彌陀ヲ置、寛永ノ頃、當村ノ民惣兵衛カ祖先起立スト傳フ、開山ハ周光、中興ハ喚迎元文二年八月廿五日寂ス、ト云、

神應院 當山修驗、大住郡澁澤村吉祥寺觸下、本尊不動、

阿彌陀堂二 一ハ海前寺ト唱フ、龍澤寺持、一ハ知足寺持、

地藏本二 一ハ西光寺ト號ス、知足寺持、一ハ龍澤寺持、

神事舞大夫松本隼人江戸浅草田村、八大夫配下國府新宿、六所明神ノ社役ヲ勤ム、

万年氏邸蹟 知足寺ノ前ニアリ、水田大段大歩ヲ闢ケリ、縣令万年七郎右衛門高頼カ邸跡ト云元祿十年十一月、此地ヲ万年傳兵衛ヨリ、里正惣左衛門カ祖先ヘ讓リシ證状アリ其側ニ妙淨院屋鋪ト唱ル地アリ、妙淨院ハ、井出藏人カ法謚ニテ、享保十年二月、同人ヨリ里正ニ讓リシ證状アリ、井出氏ノ事其人ヲ考ヘス、

川勾村加波和年良二ノ宮郷ニ屬ス、江戸ヨリ行程十八里餘、古押切川曲流セシ故ヲモテ、此地名起リシト云、舊ハ梅澤今ノ山西村ナリノ地ト一區タリシナリ、後各村ニ別レシハ、寛永十七年ノ頃ト云、柳川勾ノ稱呼ハ、舊ク聞エテ延喜式ニ載スル當郡ノ神名ニ、川勾神社ト見エタルモ、其所在ノ地名ヲモテ稱セシナリ、今二ノ宮明神ト唱ヘ、其社地山西村ニ屬スレトモ、即當村内ニ接セリ、故ニ本村ニテモ是ヲ鎮守ト唱フ、是其昔一區タリシ證トスヘシ、總テ地域彼是犬牙スレハ、四隣廣狹全ク詳ニシ難シ、東西凡三町許、南北五町許、東南、山西村、西足柄下郡中村原、羽根尾、前川、三村、北、本郡山西村、及足柄下郡中村原民戸四十、東海道南方ヲ通ス幅五間今大久保加賀守忠眞領ス、古領主ノ遷替ヲ傳ヘス、明暦ノ頃ハ小田原領タリ、寛永大年御料トナリ、享保元年ヨリ大久保氏ノ所領タリ、檢地ハ、万治三年九月、小田原城主、稲葉美濃守正則糺セリト云、

小名 押切、東海道係ル所ニシテ足柄下郡羽根尾村入會地ナリ、雲雀田、上サ、可佐下川、之毛加波、宮、坂下、寺久保、

林二一ハ城山ト唱フ、何人ノ壘址ナリヤ傳ヘス、共ニ領主林ナリ、

海 南方ニアリ、古ヘ墟田アリ正保二年領主ヨリノ村方割付ニ墟永五百七十文上納ノコト見エ、今廢ス慶安年中ノ割付ニハ墟永ノ沙汰ナシ船二艘ヲ置

テ農隙ニハ漁業ヲナセリ、所獲ノ魚前村ニ同シ、

押切川　西方足柄下郡、中村原ノ堺ヲ流ル幅八間此川、古ハ村内字根カヲミニ堤アリテ曲流シ、西隣足柄下郡前川村ニ注キシカ、中古水溢シ、彼堤崩壞セシ後、今ノ水路トナレリト云、

山王社　寛文十一年ノ勸請ナリ、西光寺持

淺間社　村民持、下同シ

稻荷社

御嶽社

妙見社

密嚴院　川輪山廣濟寺ト號ス、古義眞言宗、足柄下郡國府津村寶金剛寺末、開山覺鑁密嚴坊ト號ス、依テ寺ニ名ツクト云ヘト慥ナル傳ナシ中興惠雅、永祿元年二月廿八日寂ス、本尊不動、胎中ニ覺鑁作、長二寸ノ像ヲ納ム

寺寶、

不動畫像二幅一ハ智證、一ハ覺鑁筆ト傳ス

高野四所明神畫像一幅眞如筆ト云下同シ、

弘法大師畫一幅

西光寺　無量山雨寶院ト號ス、本寺前ニ同シ開建詳ナラス、天正四年、良印再興スト云、本尊不動ヲ置ク、

三重塔　胎藏界ノ大日ヲ安ス、

山西村也未仁之年民江戸ヨリ行程十八里、古ハ川匂村ト
一區ニシテ、即梅澤ノ里ト呼ヘリ、其名舊クハ文明中
聖護院准后道興此地ヲ過リシ時ノ詠、回國雜記曰、梅澤ノ里ヲ過侍
ルトテ、旅衣春待心替ラ子ハ聞モナツカシ梅澤ノ里、同十二年太田道灌ノ詠
吟、平安紀行日、梅澤ト云里ニテ、春ナラハ旅行袖モツラカラシ名ノミハ匂フ梅澤ノ里、等ニ見
エタリ、古此地梅樹多シ、故ニ名トスト云、サレハ、元和
八年十二月、内大臣通村、關東ヨリ歸洛ノ路次、此地ニ
オイテ梅花ノ詠アリ、關東海道記曰、元和八年十二月十六日、江戸ヲ立テ登リケルニ、
十八日大磯ノコナタ、梅澤ト云所ニテ梅ノ咲シニ、冬カケテ咲梅澤ノ所ニテ春ノ隣ノ近キヲツシル、
今モ猶多ク植テ、其實ヲ鬻ク者許多アリ、サテ寛永中
ニ至タリ、別レテ二村トナル、事ハ川匂村條ニ詳ナリ夫ヨリ後ハ、
梅澤村ト唱ヘ、既ニ正保國圖ニモ然記セリ、又土人ノ
傳ニ古ハ埋澤ト書セリ、ソハ日本武尊東征ノ歸路、此
海上ニテ難風ヲ鎮シカ為、橘姫身ヲ海中ニ投セシ後、
其衣裳ノ汀ニ流寄シヲ埋タルヨリ起ルト云ヘト、是
ハ村内吾妻社ノ縁起ヨリ設ケ出タルニテ、全ク妄誕
浮説ト云フヘシ、寛文ノ檢地帳ニ、始テ山西村ノ名見
エタリ、是ハ此地民方總テ連山ニテ、其西ニ値レル故
名ツクト云、今或ハ舊名ヲ存シテ、梅澤ノ里トモ呼ヘ
リ、東西十六町餘、南北十二町餘、東、二宮村、西、川匂村、及ヒ足柄下郡、小竹、小船、

中村原、前川、羽根尾、五村、南ハ海、北、本郡中里一色ニ村、及ヒ足柄下郡小竹村民戸二百二十、今御料、及ヒ神谷左内カ知ル所ナリ、古ハ御料所、寛文六年板倉内膳正重矩ニ賜ハリ、同十二年御料ニ復シ、延享元年酒井雅樂頭忠知ニ賜リ、寛延二年松平大和守直賢ニ替賜ヒ、同七年又御料トナリ、文化九年神谷氏ニ裂賜ハル東海道南方ヲ通ス、幅三間半ヨリ四間ニ至ル小名越地ニ立場アリ、梅澤ノ立場ト呼フ、茶店軒ヲ連子、諸侯ノ憩息所等モアリテ、頗繁榮ナリ、

飛地元ハ足柄下郡、沼代、小竹、中村原、三村ニアリシカ、元録中改定ノ時、他郡ニ跨ルヲ以テ其地ヲ裂テ所在ノ村々ニ屬セラル、按スルニ、寛文五年ノ検地高ト今現存ノ高ト比スレハ、七十二石餘ヲ減セリ今其地ハ彼村々ニテ御料ノ沼代、小田原領小竹、小笠原知行中村原ト辨別シテ唱フル地是ナリ

其餘レル所、今猶足柄下郡小竹村ニ一畝十八歩アリ

小名 元梅澤 釜野、道場 越地、

一里塚 立場茶屋ノ東ニアリ、雙堠相對ス、南側高一丈餘、榎樹ヲ植、北側高一丈二尺餘、槻樹ヲ植、東ハ郡中國府新宿西ハ足柄下郡小八幡村ノ里堠ニ續ク、

山 艮方ニ連ナル吾妻山山上ニ吾妻社アルヲ以テ名ツク、登三町餘城山何人ノ壘蹟ナリヤ傳ヘス、或書ノ考ニ、コノ邊ノ白田ヲ、字小太郎畑ナト唱ルニ依レハ、走湯山文書ニ見エタル、中村安藝太郎カ居址ナルヘシナト云ト、イカヽアラン釜野山、大入山、宮山、石坂山、道場山、房ケ山、長峯山、上ノ山、倉上山等ノ名アリ、中ニ就テ、大入山、石坂山ニ秣場三町九段餘アリ、

坂四一八押切坂、登九十間二八共ニ梅澤坂、各登四十間許ト唱
フ、フ、各海道中ニアリ、一八野木多坂、能義於之佐加○登八十間許、ト
云、中里村ヘ超ル道ナリ、
洞 所々山址ニアリ、濶何レモ三四間ヨリ四五間ニ至ル、鎌倉ノ方言ニ、矢倉ト云ル類ナリ、中ニ寺氏ト呼ヘルモノアリ、洞中ニ墳墓アリ、洞口ニ扉ヲ設ケシ跡ナト見エ、
御林三 一八吾妻山、一町五段三畝十歩一八字須崎、二段五畝一八
字濱邊一町一段二畝二十歩ニアリ、共ニ松林ナリ
海 巽方ニアリ湖干七間大船十三艘地引船七、小買附船ト稱スルモノ六ヲ
置ク、漁魚ハ大抵前村ニ同シ、鮟鱇ヲ此濱ノ名品ト
セリ、河岸場アリテ貢米竹木炭薪等ヲ運致ス、江戸
迄海上三十六里、此海濱ヲ袖ヶ浦、小餘綾ノ磯ナト呼
リ
押切川 西境ヲ流レ、幅二十間許、海エ入ル、東海道ノ係ル
所土橋長十六間ヲ架ス、橋下ニ蘆苅場アリ、此代永ヲ收
ム
梅澤川 村内山間ヨリ湧出シ、幅二間南流シテ海ニ入
ル東海道ノ係ル所土橋長七間ヲ架セリ
二ノ宮明神社 往古八川勾神社ト稱ス、是延喜式ニ載
スル所、當國十三座ノ一ナリ、衣通姫命、大物忌命、級
津彥命ノ三座ヲ祀レリト云、神體ハ函中ニ納メ秘物トス、當村、及

ヒ川勾、二ノ宮、中里、一色、西久保、大村ノ鎮守ナリ、建久三年八月五日、源頼朝神馬ヲ奉納アリ、東鑑日、建久三年八月五日、二ノ宮、川勾大明神等仁奉神馬、景時、義村、奉行之、同九日、夫人平產ノタノ神馬ヲ納メラル、八月九日、御臺所御產氣、鶴岡、相模國神社佛寺、奉神馬、被修誦經、十二社之一、二ノ宮河勾大明神、建長四年四月、宗尊親王鎌倉ニ下向アリシ時將軍事始ノ儀トシテ、幣帛神馬等ヲ收メラル、建長四年四月十四日、御幣神馬、可被奉獻之、所々、諸國二ノ宮總社、宗尊親王、關東下向無為之上將軍始也當社應永ノ頃回祿ニ罹リシヨリ、總テ古傳ヲ失ヘリト云、例祭每年五月五日、神輿ヲ舁テ、國府本鄉村、字神揃山ニ至リ、祭儀ヲ行ヒ、歸輿ス六月晦日、此日ニハ當所ノ海濱ニ神輿ヲ舁來リテ祭事ヲ行フ、是ヲ大祭

ト云ヒ、又正月元日ヨリ十五日迄祭事ヲ行フ、是ヲ小祭ト呼リ、元三、六日、七日、御的神事、八日、十一日、十三日、牛王祭、十五日、御筒粥ト唱ヘ祭儀アリ、國府新宿、六所社神主、近藤因幡カ藏スル、天文十三年、北條氏ノ出セシ文書全文ハ、國府新宿六所社ノ條ニ引用セリ中ニ、一貫五百文、二ノ宮明神端午祭トアルハ、即當社五月五日、大祭ノ資用トシテ、彼社ヨリ當時配當アリシナリ、天正十九年、社領五十石ノ御判物ヲ賜ヒ、元和三年、舊ニ依テ御朱印ヲ賜フ、拜殿幣殿アリ

神寶

石一顆高八寸、圓徑四尺三寸餘、綱ノ如キ目理アリ、依テ綱石ト名ツク、永延ノ昔、神主ニ見

氏ノ祖先、勢州二見浦ヨリ携來リシ物ニテ、旱年ニハ河中ニ投シ、雨ヲ祈ルニ驗アリト云

末社 神明、八幡、春日、合社、 當國式內神十二座合社、 菊久理姫、咲耶姫、淡島、合社、 八百萬神、阿屋葉連、合社 辨天社 已上東五社ト云、仲哀天皇、仁德天皇、武內大臣、合社、 素盞嗚命、 猿女命 愛宕、 天神、 已上西五社ト唱フ、 香取、鹿島、息栖、道祖神、合社、 稲荷、山神、合社 已上ノ末社破壞シテ未再建ナラス、

隨身門 豐磐間戸、櫛磐間戸ノ二神ヲ置、

本地堂 本社ヨリ南方四町許ヲ隔、海道ノ入口ニアリ、前ニ華表アリ、礎石ノミニテ再建ナラス、 本地藥師、長八尺八寸、行基作、胎中ニ彌陀ノ木像ヲ納ム及十二神ヲ安ス、成就院持、堂ノ東西ニ、銀杏樹三株西方圍一丈三尺餘、東方各圍九尺餘アリ、注連掛木ト呼リ

鐘樓 元祿八年ノ鐘ヲ掛ク、

神主、二見神太郎景房、家系ニ據ルニ、祖先ハ二條中納言ノ二子、藤原景平ヨリ出、景平伊勢國二見七鄕ヲ領ス、因テ二見ヲ氏トス、後當國ニ下向シ、神職トナリシヨリ、連綿トシテ三十四代ニ及フト云、古文書五通ヲ藏ス、一ハ元亀三年閏正月、小

田原北條氏ノ臣、山角刑部左衛門奉リ、給田及ヒ
麻役銭等ヲ祖先ニ與フル状ナリ日、紅林助右衛門給、并三島麻役銭被下者也、仍状如件、元亀三年壬申閏正月十七日、二見民部丞殿、山角刑部左衛門奉之、虎朱印アリ
一ハ某年、同氏ヨリ出馬以前、武具ヲ修理シ、用
意スヘキ旨ノ下知状ナリ、日、箔ノハケ損シタル鎗不可持、推直スヘシ、鑓シテ悉新赤ク可致直、ツフレ皮笠着セヘカス、箔悉推直箔可置、持小籏、指小籏、共ニ武切、武フスヒクル不可持、以上、右之條々火急ニ致支度、來出馬以前、如何ニモ相嗜、結構ニ可致直者也、仍如件、卯月廿三日、二見民部丞殿、北條氏虎朱印、此餘二通モ、同氏出陣前ノ
下知状ナリ、一ハ日來月可為出馬間、火急ニ可致支度、乍毎度之儀嚴蜜ニ可致之、雖兼日之法度候、猶致仰出候、鑓小籏持之外ハ、悉ク可致指物、キレ小籏、古小籏相止、結構ニ可致之、又鑓

ニ間之中ヨリ短不可為持、改可申付、朱シテ悉新可致之、鑓之箔ハゲタルヲハ可推直、此筋目雖不及申出候、猶自然為油断候、若拔忽緒有而者可處嚴科者也、仍如件、二月廿六日、二見民部丞殿、同神平殿、虎朱印アリ、一ハ日、小旗指物以下古キヲハ皆可致直事、鑓ノ箔可推直、幷シテ新致之、鑓イカニモ能磨クヘシ、團扇為損候ヲハ皆直、箔可推直事、諸武具何トモ無不足、如定遣念無見苦敷様ニ、如何様ニモ結構ニ可致立、取分五物ノ金銀少モ無古光様ニ可致之事、七タヲ傍爾ニ出來候様ニ諸事ヲ指置無油斷可致之事、童子ケ間敷者、先段如下知令停止事、右先段申出着到帳ヲ披、細カニ見届可致候、當年ノ弓矢當方是非候處ニ、例式之様ニ致覺悟、致無嗜候者、可為重科者也、仍如件、大月十□、二見□□□、同神□□□虎朱印アリ
一ハ文祿二年　東照宮名
護屋御在陣ノ時、左門朝家、御陣所ヘ參上セシニ
ヨリ、賜ハル所ノ御書ニシテ、壺ノ御黒印アリ日當

國在陣爲レ届、遠路罷越候事、御祝着被二思食一候也、正月二日、相州二宮神主、此時全阿彌ヨリモ添状アリ日、舊冬者御大儀ニ而遠路御見舞ニ被レ參候段、被レ成二御訣一、御黒印ヲ被レ下候間、慥ニ届申候、江戸拙者宿ニ而、可レ有二御請取一候、恐々謹言、返返此浦迄爲二御見舞一被レ參候段、大形ハ御祝着被レ成候而、御黒印ヲ被レ遣候、可レ有二御請取一候以上、正月十二日、二宮神主左門殿、全阿彌華押、表書ニ、二ノ宮神主左門殿、參、從二尾州名護屋一全阿彌トアリ、此例ニヨリ、今モ隔年江府ニ參リ、御祈禱ノ符ヲ捧ケ、拜謁ヲ遂ト云

成就院

神主ノ比隣ニアリ、二ノ宮山神宮寺ト號ス、古義眞言宗、足柄下郡國府津村寶金剛寺末、開山良傳、長保元年十月十四日寂ス曩昔、字釜野ト呼ヘル地ヨリ社地ニ移セリト云今モ其地ニ除地大畝歩アリ按スルニ當院今ハ供僧ト唱ヘ、大院當院、金剛院、川匂村蜜嚴院、西光寺、國府新宿蓮華院、宝積院ノ一ニ列スレトモ其實ハ別當寺ナリ本尊十一面觀音長一尺八寸、行基作ト云ヲ安ス、

稻荷社

下社家、佐々木喜十郎 神主ノ門前ニ住ス、祖先權之尉ハ、景平ニ隨ヒ、勢州ヨリ來リシモノト云リ、

吾妻社

吾妻山ノ頂上ニアリ、橘比賣命ヲ祀レリ、社傳ニ、日本武尊東征ノ時、橘媛當國ノ海底ニ投シテ風浪ヲ靜メ給フ、後七日ヲ歷テ、海汀ニ流寄

所ノ櫛ヲ得テ社内ニ納ム、武ハ衣袂ヲトリテ此山ニ埋メ祀リシナト云リ、本地佛千手觀音（長一尺許、）ヲ神體トス、（天平中行基此邉遊化ノトキ、神託ヲ得テ此像ヲ刻ミ、神殿ニ納ムト云）寛延三年九月再興ノ棟札ヲ納ム、例祭正月六日（十六十七ノ兩日ヲ期ス）兩度ナリ、腹病痞積等ニ惱者祈請スルニ驗アリト云、等覺院持下同シ、神主内海筑後、二ノ宮村ニ住ス、吉田家ノ配下ナリ、（鐘銘ニ、禰宜本願内海右近ト見エタルハ即祖先ナルヘシ、）

鐘樓　鐘ハ寛永八年ノ鑄造ナリ（梅澤山千手院四阿大權現云々ト鐫ル、按スルニ、千手院ハ古當社ノ別當ナリ後廢寺トナル事ハ、等覺院ノ條ニ辨ス）

二王門　寛永十年、別當千手院賴榮創建セシカ、近世破壞ノ後再建ナラス、

三武社　日本尊若武彥命、武日命、七掬脛命ノ四座ヲ祀リ、藏王金毘羅ヲ相殿トス、此山ハ日本武尊東征ノトキ、行宮ヲ設ケシ地ナリト傳フ、本地不動（座像長二尺餘、弘法手刻シテ、弟子杲隣ニ與ヘシ像ナリト傳フ、）ヲ安セリ、例祭ハ正六九ノ三月、十六七兩日ニ行フ、寛永十四年ノ鰐口ヲ掛ク、瘡疾ヲ患ル者祈誓ヲカクト云

神明社　本地大日ヲ置ク、毎歳正月元日ヨリ七日迄里人燎火ヲ點シテ祭ル、

末社 稲荷、山神、疱瘡神、

熊野社 本地薬師長一尺、行基作ト云ヲ安ス、祭期神明ニ同シ

天神社 村持、下同シ、

八幡宮 毎歳八月十五日護摩ヲ修行ス

天王社 例祭六月七日、字小原ト云所ニ假屋ヲ設ケ、神輿ヲ出シテ祭リ、十五日歸座ス

稲荷社

秋葉社 第六天稲荷ヲ合祀ス、川勾村蜜嚴院持、

等覺院 梅澤山東光寺ト號ス、古義真言宗、足柄下郡國府津村寶金剛寺末、往昔、千手院東光寺、神願寺ト號セシ三寺アリ、千手院ハ村内吾妻社ノ別當坊ニシテ、天平中行基ノ創建ナリ、東光寺ハ其先詳ナラス、梅澤山神願寺ハ、天長ノ昔釋果隣弘法ノ弟子十哲ノ一ナリ、承和十一年十一月七日寂ス、カ創スル所ナリ、安貞ノ頃、鶴岡別當隆辨箱根山往返ノ路次、宿寺トスルニヨリ修理ヲ加フ、永正ノ末ヨリ享祿ノ始ニ中リテ、神願寺ノ住僧寛恵天正元年十月十二日寂ス、當寺ニ墳墓アリ、東光、千手、ノ二寺ヲ中興ス、永祿四年兵燹ノ為ニ、三寺共烏有セシヲ、天正三年ニ至リ、僧實雄元和四年二月十二日寂ス、等覺房ト號セリ、隣郡中村原ノ產ニシテ、彼地ニ墓アリ、更ニ東光廢寺跡ヲ開キ、神願寺ヲ合セテ一寺ヲ建ツ、即

當寺是ナリ時ニ兩寺ノ山寺號ヲ合セ稱シ、雄カ號等覺房ト云ヘルヲ執テ院號トス、按スルニ、今隣ヲ開山、雄ヲ中興、恵ヲ再中興、雄ヲ中興二世ト稱スルハ中ラス、即隣ハ神願廢寺ノ始祖、雄ハ同寺中興、恵ハ東光廢寺ノ中興、雄ハ二寺ノ再中興ニテ、其實ハ兩寺合建ノ始祖ト云ヘシ、本尊不動、長一尺五寸、安阿彌作、又弘法、理源、各長一尺二寸、同作、塑像ノ不動長五寸、和州生駒山宝山比丘作、等ヲ安ス、境内觀音堂ノ前ニ古藤樹アリ、花ハ紫白ノ二種ナリ、元和九年、大猷院殿御上洛ノ時、當寺ニ御駕ヲ駐給ヒ藤樹台覧セサセ給フ、其時賜物アリ、今ニ寺寶トス、亦寛文ノ頃、仁和寺宮、關東下向ノ時藤花ヲ一覧アリテ、藤卷寺ノ別號ヲ貢セラレシト云、

寺寶

茶碗二口、一ハ葵御紋ヲ押ス、大猷院殿ヨリ賜ハルト云一ハ菊ノ紋ヲ付仁和寺宮ヨリ與ヘラルト云、

硯一面、長八寸八分、横五寸三分、東湖秋月ノ圖ヲ彫レリ朝鮮國紫峯寄附ス

鞍黒漆ナリ、今ハ損失シテ前輪ノ三ヲ存ス、川勾三郎政頼所持ノ品ニテ、小澤治部宗清ト云者寄附セリト傳フ、治部ハ當村ノ人ニシテ、寛永十六年十二月死、墓村内ニアリト云、

愛染畫像一幅、弘法筆ト云、

藥師堂 聖徳太子ノ作佛長四尺五寸、ヲ安ス、是古東光廢寺ノ本尊ナリシト云、背ニ享祿五年再興ノ銘

アリ、大日本國、相州動木郡、二ノ宮庄之内、梅澤於宿奉殊薬師如来再興、檀那宮戸臣朝、昌林比丘敬白于時享禄五年壬辰六月十三日ト記ス、按スルニ、宮戸臣朝ハ、里正與左衛門ノ祖ナリト云日光、月光各長二尺、行基作ト云フ十二神各長一尺同作賓頭盧、長一尺、運慶作ト云、等ヲモ置リ、抑古東廢寺ハ、其始詳ナラス、天平十三年、行基東遊ノ時感得スル事アリテ、日月光十二神ヲ自刻シ、合セ安シテ再営ノ志ヲ遂ク、建武ノ乱ニ荒蕪シテ、纔ニ草堂ノミヲ存セシヲ、享禄中神願寺ノ僧寛恵、靈夢ニ因テ古寺ヲ再興シ、本尊ノ背ニ年紀ヲ書記ス、然ルニ、永禄四年兵火ノ為ニ、寺焼亡ニ及ヒ、纔ニ佛體ヲ遺存セシヲ、天正三年僧寶雄、神願、東光、二寺ヲ合シテ、當院ヲ建ルノ時、此堂モ修理セシトソ、今ノ堂ハ、其後朽損シケルヲ、近キ寶暦中再造セシナリト云、

観音堂　正観音長三尺、行基作ト云ヲ置ク、是其昔廢千手院廢跡今字松ヶ窪ニ在、ニ在シ所ナリ、抑千手院ハ、天平中行基東遊ノ時、村内吾妻社ノ神託ニ因テ、千手ノ像ヲ刻シ、彼社殿ニ収、別當坊ヲ建テ即千手院ト號シ、正観音ノ像ヲ刻シテ本尊トス、建武ノ乱ニ、古東光寺ト同シク荒蕪セシヲ、永正ノ末ニ至リ、僧寛恵再建シケルカ、永禄四年ノ兵火ニ焼亡ニ及ヘ

リ、天正中實雄、又再興スト云ヘトモ、是ヨリ等覺院ノ兼管トナレリ、正保中又荒廢ニ及ヒ、本尊ヲ等覺院ニ移セシヨリ、永ク廢寺トナル、數年ノ後、寶暦五年江府ノ商家報賽ノ為、當寺境内ニ堂宇ヲ再興シ、更ニ百觀音ヲ親刻シテ合セ安ス、

鐘樓　明和年中ノ鑄鐘ヲカク

稲荷社　藤巻稲荷ト號ス、

表門　梅澤山（朝鮮國春齋筆、）ノ三字ヲ扁ス、

金剛院　釜野山ト號ス、本寺前ニ同シ、相傳フ、此寺ハ鳥羽法印光寶（卒年ヲ傳ヘス、光宝カ事蹟ハ、高僧傳、東鑑嘉禎元年ノ條等ニ見エタリ、）カ憩息ノ坊蹟ナリト云、仍テ寶ヲ開山トス、二世慶傳、（正應五年八月十四日寂ス、）中興秀雅、（弘治二年二月廿四日寂ス、）本尊不動（長一尺、智證作、）ヲ安シ、又荒神（弘法ノ作ト傳フ、）ヲ置ク、

稲荷社、清瀧宮、

寺寶

水天畫像一幅、（光宝鎌倉ニテ水天供ヲ修セシトキ、自書セシモノト傳フ、）

寶藏寺　延命山ト號ス、曹洞宗、（二、宮村大應寺末、）古ハ地藏堂ナリシガ、元和ノ頃舜桐（本寺五世、寛永四年五月十二日寂ス、）一寺トス、仍テ是ヲ開山ト稱セリ、本尊地藏

稲荷社、天神社、石神社、

光福寺 園繞山ト號ス、時宗、足柄下郡國府津村、蓮臺寺末、開山他阿眞教、遊行二世、元應元年寂ス本尊三尊彌陀、臺座ニ、元和四壬午年閏三月十四日、遊行卅二世記之トアリ、

觀音堂、 馬頭觀音ノ石像ヲ置、

觀音堂二 一ハ十一面觀音ヲ安ス、小澤廢寺ノ蹟ナリト云、見捨地一畝許、一ハ正觀音ヲ置、正福寺廢蹟ト傳フ、見捨地五畝程、兩寺トモ廢セシ年代詳ナラス、共ニ等覺院持、下同シ、

地藏堂 神願廢寺ノ堂ナリト云、見捨地一畝石像ヲ置、堂地ニ中興祖、寛恵ノ墓碑アリ、文字剝落シテ見エス、

十王堂 十王、及地藏ヲ置、慶長ノ頃、小澤治部宗清、今此人ヲ傳ヘス、按スルニ、小澤廢寺モ、若クハ彼カ建立セシ寺ナルヘシ、建ト傳フ、村持、下同、

阿彌陀堂

千手院廢蹟 字松ヶ窪ニアリ、白田二段三畝歩、ヲ開ク、等覺院持、

塚二 一ハ小名道場ニアリ、斥候塚ト書シ、土俗ヘビ塚ト唱ヘリ、高一丈二尺、一ハ東海道並木ノ下ニアリ、頸塚ト呼フ、高一尺五寸、周三間許、共ニ來由ヲ傳ヘス、

舊家與左衛門 世々里正ヲ勤ム、氏ヲ宮丘ト呼ヘリ、

等覺院藥師堂本尊ノ背ニ、宮戸臣朝ト記セルハ、即彼カ祖先ナリト云、天正十八年豐太閤ヨリ當村ニ出セシ制札ヲ家藏ス、是臣朝ノ孫、與左衛門道泉カ時ナリト云、

國府本郷村 古不保武賀宇年良 江戸ヨリ行程十七里、往昔當國ノ府廳ヲ此地ニ置レシカ故、即此遺稱ヲ存スルナリ、サレト古昔ノ事歷傳フルモノナシ又倭名鈔ニハ、國府大住郡ニ在ト見エタリ、是モ彼郡中ニ其蹤跡遺名等存セサレハ、何レトモ詳ニシ難シ、或ハ此地古クハ大住郡ニ隷セシヲ、後郡界變遷アリテ本郡中ニ併入セシトモ云ヘキナレト、其地形ヲモテ考フレハ、此地郡ノ中央ニアリテ、古昔隣郡ニ屬セシトセンハ甚迂遠ナリ、今考フルニ、其昔國府廢置變遷アリシヲ、古傳ノ存スルモノナキカ故カヽル疑ハアルナリケリ國府新宿ニ、本州ノ總社六所明神鎮座アルカ上國府ノ遺名現ニ存スレハ、此地古國府タルコト辨ヲ俟ヘカラス、猶古國府ノ事、建置沿革ニ委シク辨スヘシ、又此地ノ舊名今推考スルニ、倭名鈔當郡ノ鄉名ニ、餘綾ノ唱アリ、是舊名ト云シカ、往古郡中ニテ此地最蚤ク闢ケ、多ク村落ヲナセ

シモノニテ、郡中宗トアルヘキ地ナリシナラン、故ニ其名郡名ニ及ホシ、後又國府ノ廳ヲモ置レシナルヘシ國府ノ號ハ東鑑、治承四年十月ノ條ニ國府六所宮ト載セタルヲ始トシテ、彼書往々此稱呼所見アリ、下ニ注記スルモノ併セ見ルヘシ、又或ハ柳田鄕トモ唱ヘシナリ、鎌倉建長寺塔頭寶珠庵所藏永和五年ノ文書ニ、相摸國柳田鄕新日吉ニ今國府新宿存在セリ、敷地内、云々ト見エタル是ナリ、今國府新宿六所社ノ古名ヲ、柳田大神ト唱ヘシモ、即所在ノ地名ニ因レルナリ、是モ東鑑、建久三年ノ條ニ、總社柳田ト見エタレハ、其頃モ蚤ク此稱呼ハ在シト

識ルヘシ、天正十八年、豐太閤ノ出セシ制札ニハ、相摸國コウノ鄕トノス今村民所藏ス、治承四年十月、源頼朝、北條時政等二十五人カ勲功ノ賞ヲ、當所ニテ行ヘリ、東鑑曰、治承四年十月廿二日、着ニ于相摸國府一給、始被行ニ勲功賞一、北條氏等二十五人被レ賞云々其頃、大庭三郎景親當所ニテ梟首セラル、鎌倉將軍家譜曰、頼朝自ニ駿河一歸ニ相摸國府一、行ニ勲功一賞於家臣一、景親降參遂梟ニ其首一小田原北條氏ノ頃ハ、大形某役帳曰、大形百貫四百三十文、國府癸卯檢地辻、此外二十貫文、黒岩村御料所ニ罷成、カ采知、及ヒ六所明神ノ社領相州大所領、六十五貫七十八文、國府生澤ニ伏云々タリ、今白須甲斐守政德カ知ル所ナリ、其先御料所タリシヲ、延享二年酒井雅樂頭忠知ニ賜ヒ、寛延二年松平大和守直賢ニ替賜ヒ、文化八年白須甲斐守政雍ニ賜フ、檢地ハ天文十二年北條役帳

ノ後、寛文五年、成瀬五左衛門重治糺セリ、民戸百十四、東西十一町餘、南北二十町許、東、西小磯村峯堺、西、國府新宿、南海、北寺坂生澤ニ村、東海道村ノ中程ヲ貫ク、幅三間餘、當所即立場ナリ、東方大磯宿ヘ一里、西方山西村ノ内梅澤ヘ一里ノ行程ナリ、村北ノ山間ニ秣場段別五町、アリ、

高札場

小名 中丸、古ハ中丸村トテ一村落ヲナセシカ、何ノ頃ヨリカ、村内ノ小名トナレリ、馬場

神揃山 西北ノ方、生澤村堺ニアリ、高二十間許、山上平衍ノ所、方四十間許、五月五日近郷五社ノ神輿、集會スル故名トス、事ハ六所明神社ノ條ニ載ス、

城山 東方、西小磯村ニ跨レリ、長尾右衛門尉景春カ被官、越後五郎四郎ト云シ者ノ城跡ナリト云、委クハ、西小磯村ニ辨ス、

馬場 六所明神社領ノ内、生澤村堺ニアリ、字櫻馬場、又日陰ノ馬場トモ云、長百廿七間、幅三間半、五月五日、六所社神事ノ時、コヽニテ調馬ノ儀アリ、此所ハ、古ヘ小栗判官助重ト云者、鬼鹿毛ト云馬ヲ責シ所ト云ヘト、ウケカイカタシ、

切通 東方、西小磯村堺、東海道ノ往還ナリ、高八尺、幅二間半、

一里塚 雙堠ナリ、東海道ノ左右ニ對ス、塚上ニ各榎一株ヲ植、

一東方、大磯宿、西方、山西村ノ里ニツヾケリ、

化粧塚 西北ノ方、生澤村堺ニアリ、由來詳ナラス、此所ハ三ノ宮明神ノ休息所ト云、

林二 地頭林ナリ、段別二町共ニ南方字向原ニアリ、

海 南方ニアリ、海濱ヲ古余呂岐之濱ト云、獵船二艘アリテ、農間ニハ漁業ヲナス、獲ル所ノ魚ハ、鰺、鯖等ナリ、

川二 一ハ本郷川ト唱ヘ村東ヲ流レ、南方ニテ海ニ沃ク、幅五間許、東海道ノ係ル所、土橋長十間ヲ架ス、中九橋トモ云是ハ此邊ノ小名ヲモテ呼ヘルナリ、一ハ南川ト唱フ、南方ヲ東流シ、海際ニテ本郷川ニ合ス、幅三間、

守公神社 手摩乳、脚摩乳ヲ祀ル、國府新宿六所社神主近藤因幡カ藏スル、天文十三年北條氏カ出セシ文書ニ、全文ハ國府新宿六所社ノ條ニ引用ス、六百文、守公神御供分、百廿文同社燈明分、五百文同九日祭トアルハ、即當社ノ資用トシテ、當時彼社ヨリ配當アリシナリ、今モ猶彼社ノ末社ニ屬シテ、彼社頭ノ内高二石七斗一升七合ヲ配當ス、例祭六月廿日

眞勝寺 相府山遍照王院ト號ス、古義眞言宗、大住郡岡崎、金

剛頂寺末、大所明神ノ別當寺ナリ、開山行基中興眞長天文十三年三月十一日寂ス、本尊大日、及ヒ三尊彌陀惠心筆ノ畫像ヲ安ス、

觀音堂　本尊如意輪觀音、長一尺一寸及ヒ藥師長一尺、大所明神ノ本地佛トス、ヲ安ス、共ニ行基ノ作ナリ

寶前院　國府川阿遮寺ト號ス、本寺前ニ同シ本尊不動ヲ置大所明神ノ供僧ヲツトム、故ニ社領ノ内ヲ配當ス、

寺寶

大字名號一幅、弘法筆

藥師堂

稻荷社

天神、金毘羅、合社

梅林寺　谷村山元祿ノ鐘銘ニハ、土屋山トアリ、何ノ頃改メケン傳ヘス、ト號ス

淨土宗、鎌倉光明寺末中興待譽、享保十五年六月四日寂ス、本尊地藏長四尺九寸五分、行基作、緣起ニヨルニ、梶原平三景時ノ臣惡太郎ト云モノ、常ニ此地藏ヲ信仰セシニ、建久二年不慮ノ難ヲ逃レ、又明曆中岡崎某ノ女モ不思議ノ災ヲ免レシカハ、土人首切地藏、或ハ化地藏、身代地藏、ナト稱セリト云、

鐘樓　元祿十五年鑄造ノ鐘ヲカク、

阿彌陀堂二　共ニ村持、

彌勒院跡　所在詳ナラス、大住郡岡崎金剛頂寺、寛永

ノ頃ノ末寺帳ニ、國府彌勒院トミエタリ

國府新宿古不志年志由久　元祿ノ郷帳ニハ、國府新宿村ト記ス、江戸ヨリ行程十七里、戸數百十五東西八町許、南北十町許、東、國府本郷村、西、二ノ宮村、南、海北、生澤、出縄二村、今御料、及ヒ堀十郎兵衛利和知行ナリ、文政十一年裂キ賜ス、檢地ハ、寛文五年、成瀬五左衛門重治改ム、寳暦七年、志村多宮カ檢セシ新田八斗六升八合、アリ、高入トナル、東海道東西ニ亘リテ、村ノ中央ヲ貫ク、幅三間餘村東ニテ、北方ニ達スル岐路アリ、幅三尺許伊勢原道ト云

高札塲

小名　上町、加美天守、中宿、木ノ下原、月京、南、祇園塚、岸、

山　西方ニアリ、古磯山、不留伊曾也末山王臺、稲荷山、權現山等ノ名アリ

御林　南方字向原ニアリ、段別二町五段拾歩、

宇田川　南方ヲ流ル、幅三間、又村北ヲ流ル、一流アリ、幅九尺字小川ト唱フ、

海　南方ニアリ、獵船四艘アリテ漁業ヲナス、獲ル所ノ魚ハ、志羅宇遠、鯖等ナリ、浦邊ヲ袖浦、又淘綾浦ト唱フ、

六所明神社　當社ハ本州ノ總社ト唱ヘ、當村、及ヒ國

府本郷、生澤、虫窪、四村ノ鎮守ナリ、行嚢抄曰、大所大明神、村ノ右ニアリ、小社ナリ、或ハ本社ハ是ヨリ北、生澤ニアリト云、按スルニ、當村ト生澤相接スレハ壌ノ變革セシモ知ヘカラス古ハ柳田大神ト號セシト云、柳田ハ所在ノ古名ナリ、祭神ハ、稲田姫命ニシテ、素盞嗚尊、大巳貴ノ二尊ヲ合祀ス、崇神天皇ノ御宇、勸請アリシト云、例祭正月三ヶ日、護摩ヲ修行ス、五月五日、國中一ノ宮、高座郡宮山村ニアリ二ノ宮、郡中山西村ニアリ三ノ宮、大住郡三ノ宮村ニアリ、四ノ宮、同郡四ノ宮村ニアリ、及ヒ平塚新宿ニ鎮座スル、八幡ノ神輿、神揃山、前村ノ属ニ集リ、一人ハ三種ト號セル、鉾ノ如キモノヲ馬上ニ押立、又一人ハ、守公神ト號シテ榊ヲ持、次第ニ列シテ神揃山ノ下、高天原ト云所ニ至ル、後五社ノ神輿、次第ニ山ヲ下リ、爰ニ至リ、神事終リテ歸社ス、此祭事ハ、養老年間ニ始ムト云ヘト、未詳ニセス、治承四年、頼朝参詣アリシ事、東鑑ニ見ユ、曰治承四年十月十六日、武衛至于相模國府大所宮、文治二年、當社修造ノ結構アリ、又曰、文治二年五月廿九日、於東海道者、仰守護人等、被注其國總社、并國分寺破壞、及同尼寺顛倒事、是重被経奏聞、随事體為被加修造也建久三年、頼朝夫人平産祈ノ為神馬ヲ牽ル、曰、建久三年八月九日、御臺所御産氣、相模國神社佛寺、奉神馬被修誦經、十二社之一、總社柳田云々建長四年、宗尊親王京師ヨリ下向シ、將軍ノ事始トメ、幣帛神馬等ヲ納メラル、曰、建長四年四月十四日、御幣神馬、可被奉献之所々、諸國二宮總

社
天文十三年、北條氏ヨリ社領六十五貫七十八文
ノ地ヲ寄附アリ、社人近藤因幡所藏文書曰、相州六
所領六十五貫七十八文之内、壹貫
二百文御供分、三百六十文燈明分三百文武射祭、五
百文端午祭、五百文臨時之祭、六百文守公神御供分、
百廿文同社燈明分五百文同九日祭、二貫文天王祭、
五貫文ニ宮明神端午祭五貫文衆徒領、二貫四百四
十四文神主分布施三河守所務、六貫文在廳四人各
壹貫五百文宛、壹貫五百文宮使一人壹貫五百文職
掌一人、壹貫五百文神宮一人、六百文兩禰宜、三貫文
催促五人各六百文ツヽ、五百文承仕一人、百五十文
手水懸免、壹貫三百文年中諸色、卅貫五百三十文
増分御造營方、都合六十五貫七十八文、右六所ニ定
供御祭其外供僧社人以下、如注文爲給恩可配當、相
殘分三拾貫五百文造營方ニ付之、年中之造營以日
記可申上、田畠抱リ候社人其外百姓、年貢就令難澁
者、小田原エ申上、所ヲ可拂者也、仍如件、天文十三甲
辰十二月廿三日、社僧
中、社人中、虎朱印アリ
永祿ニ改シ役帳ニ據レハ、其

地生澤村ニ在シト見エ、天正十九年先規ニ任セ、社
領五十石ヲ宛ラル、旨御判物ヲ賜フ、其地今國府
本郷村ニアリ、正保四年四月制札ヲ賜フ、曰、定、府中
祭禮ニ才井テ、押買狼籍禁制之事、喧嘩口論禁制之事、有來神
事系諸役無懈怠可相勤事、社中山林竹木猥不
可伐取候事、年貢難澁之百姓有之者可訴出事、宮造
營諸普請有之節、百姓共致走廻急度可相勤事、附り
非分之課役禁制、右之條々堅相守、殊可專祭祀者也、
若違亂ニ才井テハ、可爲越度、仍而禁制之所如件、正
保四年亥四月、安藤
右京進、松平出雲守、幣殿、神樂殿アリ
鐘樓 寛永八年ノ鑄鐘ヲ掛ク、
社守庵
別當眞勝寺 國府本郷村ニ住ス、鶴岡八乙女大澤

氏所藏文書ニヨレハ、古ハ神主持ニシテ、鎌倉八幡宮神主ノ指揮ニヨリ、北條氏ノ軍役ヲ勤メシ事アリ、日態申仍當國大所宮之宮主ニテ、先代任御引付其地ヘ參申候、於其元可然樣口走廻一役可被御付候、爲其口口謹言、卯月三日、鎌倉神主殿參、橫地監物丞吉信華押、據スルニ、橫地家譜ニ、監物長廣ト云モノアリ、是ハ應永頃ノ人ナリ、古信ハ其等ノ子孫ナリヘキ歟、後別當職トシテ眞勝寺ノ持トナレリ

供僧四院 寶積院、蓮華院、村内ニアリ寶前院、國府本郷村ニアリ王福寺、寺坂村ニアリ各社領ノ内ヲ配當ス、

社人十五戸所々ニ散在シ、各領ノ内其職免ヲ配當ス、

神主近藤因幡、國府本郷村ニ住ス、天文十三年、北條氏ガ社領ノ寄附狀全文ハ前ニ引用セリヲ藏ス、其文ニ據レハ、神主分配當ノ地ヲ北條氏ノ臣、布施三河守當時大住郡上下吉澤村ノ地頭タリ、今子孫下吉澤村ニアリ、彼村ノ條ニ小傳ヲ擧ク併セ見ルヘシ所務セリ、故ニ當時ノ神主ハ、オノツカラ三河守カ附屬タリシト覺エ、某年北條氏ノ爲ニ軍役ヲ勤メシ事、鶴岡八乙女大澤氏ノ所藏文書前ニ引用セリニ見エタリ、果シテ彼ニ屬セシカ故ト識ラル、是因幡カ祖先ナルヤ詳ナラス、

神宮、 出繩主水、万田村ニ住ス是鍵取役ナリ、天文ノ頃

八、寺山清三郎此職ヲ務ム、即十二年九月、北條氏ヨリ鍵取免ヲ附與ス、其時ノ證書今主水カ許ニ傳來ス、曰、山下郷寺山之内、田一段同島小、國府六所為㆓鍵取免㆒今㆓寄進㆒候、但自㆓此田之内㆒、十歩之年貢可㆑出者也、仍如件、天文十二卯九月吉日、寺山清三郎殿、中村小四郎、松田大郎左衛門尉、各華押、按スルニ寺山清三郎ハ、即主水カ家社ニテ、此頃ハ寺山ヲ稱セシ由傳フレド、其實ハ中古以來、主水カ家ニテ其職ヲ繼シ而巳、其家ノ祖先ニハアラサルヘシ、万田村文禄三年及ヒ慶長中、彦坂小刑部元正カ出セシ水帳ニ、六所社領五十石之内、中畑二段歩、主水ニ可㆑渡云々ト見エタルニ據レハ、其頃ヨリ相續セシモノト知ラル、

執事、近藤右馬允

在廳四人、戸塚玄蕃、牛村左衛門、後藤右門、戸塚左兵衛、已上國府本郷村ニ住ス、

大禰宜、三野島神七、

小禰宜、三野島佐次右衛門、已上村内ニ在、

催促五人、近藤主膳、戸塚右門、柳田戸右衛門、同本丞、各國府本郷村ニ住ス 後藤十郎左衛門、

官使、後藤掃部、已上生澤村ニ住ス

牛頭天王社 六所社神主、近藤因幡カ藏スル、天文十

三年、北條氏ノ出セシ文書（全文ハ、六所社ノ條ニ引用ス、）中ニ、二貫文天王祭トアルハ、即當社祭事ノ資用トシテ、彼社ヨリ配當アリシナリ、今モ彼社ノ末社ニ屬シ、社領ノ内（高一石六斗九升七合餘）ヲ配當ス、

日吉山王社、本地佛三尊彌陀ヲ置、例祭六月十五日、創建ノ年代ヲ傳ヘス、建久三年、頼朝ノ夫人平産祈ノ爲、神馬ヲ牽レシ事アリ、（東鑑曰、建久三年八月九日、御臺所御産氣、鶴岡相摸國神社佛寺、奉神馬被修誦經、十二社之一、新日吉云々）蓮花院持、

末社 秋葉、稲荷、

天王社 寶積院持、下同

諏訪社

稲荷社

天神社 青木天満宮ト號ス、大巳貴尊、素盞嗚尊、日本武尊ヲ相殿トス、例祭正月廿五日、舞大夫小澤兵庫持、

石神社二 村持、

疱瘡神社 蓮花院持

蓮花院 日吉山神宮寺ト號ス、古義眞言宗、（大住郡岡崎金剛頂寺末、）本尊不動、中興開山尊慶、（慶長十年八月六日寂ス、）六所社供僧ノ列ニシテ、彼社領ノ内ヲ配當ス、

觀音堂　正觀音長一尺一寸二分、恵心作ト云、ヲ安ス、
寶積院　摩尼山願成寺ト號ス、本寺前ニ同シ、本尊地藏是モ六所社供僧ノ列ニテ、社領ノ内配當アリ、
稲荷社
藥師堂　本尊藥師、及七日光、月光、十二神ヲ置ク、宮村知足寺持、
地藏堂　蓮花院持、
阿彌陀堂　宗清寺ノ號アリ、淨土宗ニテ、鎌倉光明寺進退ナリシカ、今ハ村持トナレリ、
神事舞大夫八軒　荻原左内、同傳兵衛、小澤兵庫、笠高惣大夫、同掃部、大橋監物、松永喜兵衛、同左京、江戸浅草田村八大夫配下、各六所明神ノ社役ヲ勤ム、

寺坂村氏良佐加牟良　江戸ヨリ行程十七里、民戸四十八、廣袤各十四町餘、東出縄万田二村、西生澤村、南國府本郷、西小磯二村、北大住郡下吉澤村、北條氏割據ノ頃ハ、幸田右馬助知行セリ、役帳曰、幸田右馬助、廿三貫五百文、中郡寺坂、今大久加賀守忠眞領分、及村越七郎右衛門、深谷鎌吉等ノ知ル所ナリ、古領主ノ遷替ヲ傳ヘサレト検地ノ年代ニ據レハ、寛文ノ頃ハ稲葉美濃守正則領シ、後大久保氏ニ替賜ヒ、其後村越深谷ノ兩氏ニ裂賜ハリシ年代等詳ナラス、檢地ハ、寛文五年九月十三年二月、稲葉美濃守正則糺セリ、伊勢原道村ノ中央ヲ

通ス、幅九尺、艮方大住郡下吉澤村ニ達ス 西北村境ニ秣場アリ、長十町許
高札場二
小名 宮ノ下 天神下、 田島、 大木ノ入、 根下 根柄身、 薬師下、
不動川 大住郡下吉澤村ヨリ来リ、村ノ中程ヲ流ル、幅二間餘
天王社 日月神ヲ相殿トス、鎮守ナリ、例祭六月七日、村持
鐘楼 鐘ハ寛政九年ノ再鑄ナリ、
末社 地神、疱瘡神、

八幡宮 王福寺持、
天神 迎接院持、
王福寺 大高山圓明院ト號ス、古義真言宗大住郡岡崎、金剛頂寺末、本尊彌陀、行基作、長二尺八寸五分 鐘銘ニ據レハ、行基ノ創建スル所ナリ、六所社供僧ノ列ニシテ、彼社領ノ内ヲ配當ス、
鐘楼 延寶二年再鑄ノ鐘ヲ掛、鐘銘ニ據ルニ、寛永七年ノ古鐘アリシカ、烏有ノ後再造セシ物ナリ、
愛宕社、熊野社、
薬師堂、 行基ノ作佛、長四尺三寸ヲ安セリ、

迎接院 自來山ト號ス、淨土宗、京知恩院末、開基、鈴木甚右衛門、卒年ヲ傳ヘス、村民清左衛門ノ祖ナリト云 中興開山慶應、元和九年七月十二日寂 本尊彌陀、又恵心作ノ觀音ヲ置、長八寸五分

寺寶

阿彌陀畫像一幅、恵心ノ筆ト傳フ

當麻中将姫蓮絲名號一幅

普門寺 愛執山ト號ス、曹洞宗、大住郡下吉澤村松岩寺末、開山圭叟、永正九年四月九日寂 中興開山尊託、延寶九年五月廿一日寂 本尊正觀音、

長泉寺 龍溪山ト號ス、本寺前ニ同シ、開山尊純、寛文三年十一月廿八日寂 本尊釋迦、

地藏堂 村持、

圓鏡廢寺跡 今其地詳ナラス、古義眞言宗ニテ、大住郎岡崎金剛頂寺ノ末ナリ、本寺藏寛永中ノ改帳、末寺ノ列ニ載ス、然ル時ハ其頃迄ハ存在セシト識ラル、後廢セシ年代詳ナラス、

生澤村 以久佐波牟良、 江戸ヨリ行程十七里、民戸六十二、東西十二町、南北十三町、東、寺坂村、西北、出縄、黒岩、二村、南、國府新宿、國府本郷、二村 東鑑ニ據レハ、建久ノ頃ハ、土屋三郎宗遠此地ヲ領セリ

應永ノ頃ハ馬宮彦四郎宗延知行ス、足柄下郡小船村能引寺所藏文書日、譲渡ス馬宮彦四郎宗延相模國生澤ノ上ノ村、東方ノ居屋敷田畠ノ事云々、右件ノ田畠ハ代々ノ文書ニ任テ、彦四郎宗延、一期ノ間知行スヘシ云々應永十年癸未年三月十三日、生澤ノ口口口小四郎入道華押、已上本書ハ假字文ナリ、弘治中ハ、伊波大學助、同修理亮等知行シ、大住郡石田村民所藏文書日、伊波知行之書立云々、九十一貫六百文、生澤云々、弘治二年丙辰三月八日、伊波大學助殿、同修理亮殿、北條氏虎朱印アリ、永祿ノ頃ハ伊波氏、役帳日、伊波五十貫文中郡幾澤、四十五貫七百文、同所癸卯增及ヒ國府新宿、六所明神ノ社領タリ、日、相州六所領、六十五貫七拾八文、國府生澤ニ伏今大久保加賀守忠眞領分、及ヒ皆川吉太郎 山角綱三郎 村越七郎左衛門等カ知ル所ナリ、古領主ノ遷替ヲ傳ヘサレト、檢地ノ年代ニ據ハ、稲葉美濃守正則領シ、後大久保氏ニ替リ、其後其地裂テ、延寶ノ頃ハ、大森信濃守頼直、及ヒ七郎左衛門ノ祖先、村越三十郎ガ采知タリシヲ、後大森氏ノ采地ヲ収メラレ、村越氏ニ併セ賜ヒシナリ、皆川山角両氏ニ賜ヒシ年代今考ル所ナシ、檢地ハ慶長八年ノ後、今皆川山角両氏ノ采知ナリ、寛文十三年、稲葉美濃守正則、今大久保氏ノ領分、延寶四年、村越三十郎、大森信濃守頼直等糺セリ、今村越氏ノ采地、伊勢原道村南ヨリ北東ニ達ス、幅九尺

高札場二

小名 月京、我郡幾也字、

山 鷹取山、登十一町、相傳テ、中原御放鷹ノ時、此山ニテ翦、鷹ヲ捕ヘシ事アリ、故ニ名付ト云、栗原山等ノ名アリ、

陶綾森 字月京ニアリ、濶一段餘、山西村、二ノ宮神事ノ時休息所トス

川 村ノ東南ヲ流ル、幅二間許、東隣寺坂村、不動川ノ下流ナリ、川名ヲ唱ヘス

溜池二 東池一段別一町、西池、八段許、ト唱フ、

浅間社 鎮守ナリ、鷹取山ノ頂上ニアリ、今鷹取浅間社ト唱フ、古ハ直下社奈保毛止也之呂ト唱フ、東鑑建久二年ノ條ニ、日建久二年四月廿七日、相模國生澤直下社神主清包、與地頭土屋三郎、於御前遂一決、是清包爲地頭被切取社内桑之由所訴申也、此稱見ユ、其頃ハ神主アリテ執事セシト識ラル、降リテ寛文ノ頃モ、猶此遺稱アリシコト、棟札ノ文ニ見ユ、曰、奉造營、鷹取直下山、富士浅間菩薩廣前、寛文元丑年二月日、本地佛薬師ヲ安ス、例祭六月八日、天正十九年社領二石ノ御朱印ヲ賜フ、觀音寺持、

御嶽社 清光山ノ號アリ、村持下同、

撞鐘 正徳元年ノ鑄造ナリ、

山王社、子神社、

辨天社二 各東西溜池ノ中島ニ祀ル

山王社

藏王權現社

天神社 村民持、

観音寺 清生山ト號ス、天台宗、大住郡土屋村、大乗寺末、本尊十一面観音、

稲荷社

東昌寺 生澤山ト號ス、曹洞宗、大住郡下吉澤村、松岩寺末、開基東昌寺善等、俗稱ヲ傳ヘス、寶徳三年七月七日死ス、五輪塔ノ古墳アリ、中興開山真達、寛永二十年八月七日寂 本尊釋迦

観音堂、

白山、天王、秋葉合社

阿彌陀堂 村持、下同

地蔵堂

観音堂 村民持、

虫窪村 無志久保年良 江戸ヨリ行程十七里八町、民戸二十八、東西十四町半餘、南北十二町餘、東、生澤村、西、久保、中里、二村、南、國府新宿、二、宮二村、北、黒岩村 今武田大膳大夫信典知行ス、寛永四年、木部藤左衛門直方ニ賜ヒ、延享二年御料トナリ、寶暦六年ヨリ武田氏ノ采地トナル、検地ハ、天正十九年改ノ後、元祿十四年正月木部藤左衛門糺セリ、

村西ニ土屋道係レリ 幅六尺、村ノ東南ニ秣場 八町六段アリ、

高札場

小名 下田、喜多橋、向窪、入之窪、臺、船窪、

山愛宕山、登二町許谷戸山、長坂山、丸山、中尾山、シヶサ八山、峯ノ名アリ、

川 南北二方ノ山水二條幅各四尺許東流シ、字前下田ニ至リ、會合シテ一流トナリ、幅七尺許、東南ニ泝ク、

天神社 鎮守ナリ例祭九月廿五日天正十九年社領一石ノ御朱印ヲ賜フ、神主ヲ二宮彌五兵衛吉田家ノ配下ナリト云フ、

山王社 村持

八幡宮 村民持

慶林寺 本宗山ト號ス、曹洞宗、大住郡下吉澤村、松岩寺末、慶長元年ノ創建ト傳フ、開山闇達、本寺五世、寛永五年十月三日寂本尊釋迦、

稲荷社、

阿彌陀堂 慶林寺持、

黒岩村久呂伊波牟良 江戸ヨリ行程十七里半、民戸二十五、東西廿五町許、南北七町餘、東、生澤村、西、西ノ久保村、南、虫窪村、北、大住郡土屋、上吉澤、二村、北條氏割據ノ頃ハ、大形某知行ス、役帳曰、大形、百貫四百三十文、國府癸卯検地辻、此外二十貫文、黒岩村御料所ニ罷成云々、今窪田主水 伏見勘解由等知行ス、寛永十年、窪田伏見兩氏ニ賜ヒテ今ニ然リ寛文十一年三

月窪田又右衛門正俊、来地ヲ検地セリ、西北ニ亘リテ

土屋道係レリ、幅六尺、北方大住郡土屋村ニ達ス、

高札場

小名　向谷、武加比也止、岩町、堂ノ前

山　堂ノ上山、丸山、向山、大久保山、中ノ山、斥候山、長尾山、十カラ山、囊山、婦止古呂也麻等ノ名アリ

池之明神社　鎮守トス、神體九石、長五寸本地佛藥師ヲ置、又神鏡一面徑八寸、ヲ安ス、裡ニ寶永四年ノ銘アリ、曰、鏡水山池之大明神、寶永四年戊子五月吉祥日、奉納願主守屋正春、人見和泉佐、相殿ニ石一顆長六寸ヲ祀リ、岩嚌明神ト唱フ、例祭九月八日

別當寶積寺　黒岩山ト號ス、古義眞言宗、大住郡土屋村、芳盛寺末、開山覺雄、延寶六年五月廿二日寂ス本尊彌陀、

稻荷社

山王社　村民持、

正泉寺　黒岩山ト號ス、曹洞宗、大住郡下吉澤村、松岩寺末、起立八天正十三年ト傳フ、開山闇達本寺五世、寛永五年十月三日寂本尊正觀音、

金毘羅、天神、稻荷、道了、合祠

地藏堂　村持、

西ノ久保村番之延坂穂弁良、江戸ヨリ行程十七里半、正保元禄ノ國圖ニハ共ニ西窪村ト記ス、西方一色村界ニ山アリ、其西ノ窪地ナレハ村名トス、民戸二十、東西四町、南北七町、東、出窪、黒岩、二村、西、一色村、南、中里、出窪、二村、北、黒岩村、又大住郡土屋村、今小幡又十郎知行ス、古御料ナリシカ、明和五年小幡氏ニ賜ス、土屋道村東ヲ通ス、北方大住郡土屋村ニ達ス、幅六尺、

高札場

小名入、脇之坂、向、臺、

山 横手山、谷戸山、登山、カゲ山、等ノ名アリ、

飯縄社 鎮守トス、例祭九月廿四日、村民持、

天王社 村持、下同

藥師堂

庚申塔、森、社モナク塔ノミ建リ、高三尺五寸槻松樹二株圍各八尺ヲ神木トス、

一色村伊都志幾年良江戸ヨリ行程十八里、民戸八十、東西十七町南北十三町東、西ノ久保村、西、足柄下郡小竹村、同上郡北田、井口、及大住郡五分一、四村、南、本郡中里村、北、西ノ久保村、及大住郡土屋村今大久保甚右衛門、田澤縫殿、深谷鎌吉、成瀬吉次郎、等ノ知行ナリ、各拜賜ノ年代ヲ傳ヘス、村南ヨリ西北ニ亘リテ、大山道係レリ、西隣足柄上郡井ノ口村ニ達ス幅九尺

高札場三

小名 大殿畑、梅木、北ノ根、中南、下南、下向

下合、打越、

山 久杉山、林臺山、杉ヶ入山、塚越山等ノ名アリ、

井ノ口川 大住郡五分一村ヨリ來リ、村ノ中程ヲ流ル、幅九尺

打越川 字杉ヶ入邊ヨリ湧出セル山水二條、小名打越

ニ至リ、合シテ一流トナリ、此川名ヲ唱フ、幅六尺、

神明社 東光寺持、下同、

第六天社

山王社

山神社

東光寺 日照山ト號ス、古義眞言宗、大住郡土屋村、芳盛寺末、開山

傳祐、本尊不動、

淨源寺 寶林山光明院ト號ス、淨土宗、芝僧上寺末、往古淨

圓寺ト云小寺ナリシカ、元和年中、乘應寬永十二年十月四日寂

ト云僧此寺ニ來リ再興シテ今ノ寺號ニ改メシト

云、故ニ應ヲ以テ中興開山トス、本尊彌陀三尺三寸、八聖

德太子ノ作ト云ス、

稲荷社

観音堂　如意輪観音ヲ置、又西國三十三所ノ模像ヲ安ス、

地藏堂、　弘法ノ作佛長一尺ヲ置ク、浄源寺持

中里村奈加佐登牟良　古ハ中里郷ト唱フ、文禄三年検地帳ニ相模國小中郡、中里郷云々江戸ヨリ行程十七里半餘、民戸七十七、東西八町餘、南北十一町餘、東、二ノ宮、出窪、二村、西、一色村、及ヒ足柄下郡小竹村、南、本郡山西村、北、一色、西ノ久保、二村、今伏見勘解由古御料所、寛永十年伏見氏ニ賜フ、倉橋總左衛門古御料所、寛永十年設樂主馬之助ニ賜リ、後御料ニ復シ、寛文三年稲葉美濃守正則領地トナリ、天和二年又御料トナリ、元禄十一年倉橋氏ニ賜フ、等知行ス、検地ハ、文禄三年、慶長八年改ノ後、寛文五年稲葉美濃守正則其領地ヲ改ム、大山道村ノ中央ヲ通ス、幅九尺　秣場四所一ハ一町、一ハ三段、二ハ各大段、ニアリ、

高札場

小名　假宿、加利也登、軒吉、能義世志、栗屋、　四谷、　中島、　宮久保、　貝ヶ久保、　扇畑、

山　ヘイ久保山、池川山、大藏ホウ山、田ニ谷津山、栗屋山、山王山、梅木山、鬼澤山、宮後山、等ノ名アリ、

壇海川　村中ヲ流ル、幅三間　一色村井ノ口川ノ下流ナリ、

打越川　村ノ中程ヲ流レ、壇海川ニ合ス、幅二間

万年堰　村内ニテ塩海川ヲ分水シ、當村及二ノ宮村ノ用水トス、万年七郎右衛門高瀬堀割シ堰ナレハ、カク唱フト云

明星阿加保志、明神社、鎮守トス、祭神詳ナラス、本地佛ハ虚空藏ナリ、正保三年ノ棟札ニ見エタリ、例祭六月廿三日村持、下同

神樂堂

天王社

第六天社　村民持、下同、

山王社

神明社二

寶泉寺　中里山ト號ス、曹洞宗、二ノ宮村、大應寺末、開山舜桐、本寺五世、寛永四年五月十二日寂ス、本尊地藏

藥師堂　行基ノ作佛長二尺六寸一分、ヲ本尊トス、脇立日光月光、及七十二神ノ像ヲ置、二ノ宮村大應寺持、

新編相模國風土記稿巻之四十一

村里部

淘綾郡巻之三

二ノ宮庄

大磯宿 於保伊曾志久 江戸ヨリ行程十六里、當所ハ東海道五十三驛ノ一ナリ、延喜兵部式當國傳馬ノ數ヲ記セシ條ニ、本郡五匹ト見エタルモノ、他ニ作ス所ナク、全當所ニ的シテ、古ヨリ驛路タル事識ルベシ、南方宿裏スヘテ磯濱ニシテ、長磯長十間幅三尺、俎磯長五間幅三間或ハ烏帽子岩ナト唱ル磯アリ、因テ地名ニ呼ヘルナルヘシ、倭

名鈔郷名ノ部ニ、伊蘇磯長等ノ名ヲ載ス、是當所ノ舊名ナラン歟、後區別シ大小ヲモテ分チ唱フル事モヤ、舊キ事ニヤ、小磯ノ内、東西ニ分チ呼フ事ハ、正保已後ノ事ナリ、後ニ辯ス源平盛衰記、平家物語、東鑑等ニ其名散見セリ且古クヨリ相繼テ驛路タル故、行客ノ事跡モ又諸記ニ往々見エタリ、耳目ニ觸ル、モノ、今爰ニ併セ採録ス、治承四年八月和田義盛當所ヲ經テ酒匂ニ出張セリ、源平盛衰記曰、八月廿五日、和田義盛三百餘騎ニテ、腰越、稲村、八松原、大磯小磯、打越テ、酒匂ノ宿ニ着ニケル、文治元年五月、内大臣宗盛父子、京ヨリ下向ノ路次、當所ヲ歴テ鎌府ニ入ル、日、内大臣下向、大磯、小磯、唐ヶ原、相摸川、腰越、稲村、打過テ、鎌倉ニ着給フ、平家物語、壽永

三年重衡下向ノ條ニモ、小磯、大磯ノ浦浦打過テ云々四年六月奥州泰衡ヨリ、貢金貢馬等ヲ、京師ヘ奉ルノ使、當驛ニ止宿ス、東鑑曰、文治四年六月十一日、奥州泰衡京進貢馬貢金桑絲等、昨日着大磯驛、拷スルニ宿驛ノ事是ニ始テ見エタリ建仁元年六月、源頼家、江島ヘ詣スルノ序、當驛ニ止宿シ、遊女ヲ聚テ歌曲ヲ催セシ事アリ、建仁元年六月一日、左金吾、御參江島明神、此次、令逍遥相摸川邊給、中略今夜到大磯、令止宿給、召遊君等被盡歌曲、貞應二年、源光行、當所ノ磯邊ヲ經シテ鎌倉ニ下ル時、詠吟アリ、海道記曰、大磯ノ浦、小磯ノ浦、遥々ト過レハ、雲ノカケハシ浪ノ上ニ浮ミテ、鵲ノ渡シ守天ツ空ニ遊ス、哀レサヒシキ旅ノ浦カナ、ナカメ馴ラヤスハ行ラン、大磯ヤ小磯ノ浦ノ浦風ニ行トモ盡ス返ル袖カナ文明十二年、太田持資京ニ上ル時、當所其路次タリ、時ニ詠歌

アリ、安安紀行曰、大磯ニ至リテ、草枕オキ行露モ大磯ノ浪カケ衣乾ソ佗ヌル、十八年、聖護院准后道興廻國ノ路次、當所ニカヽレリ、時ニ遊女虎カ事ヲ思ヒ寄セテ詠吟アリ、回國雜記曰、大磯ノ宿ト云ル處ハ、古虎ト云好色ノ住ケル所トナシ、或同行ニ戯ニ申聞セケル、今ハ又虎臥ス野邊ト荒ニケリ人ハ昔ノ大磯ノ里永祿三年、上杉輝虎小田原ヲ攻伐シ時、當所ニ陣ヲ取レリ、立相記曰、永祿三年、越師伐ニ於相小田原一、而陣ニ一榮大磯小磯云々等邑一、文祿四年七月、豐臣秀次征罰ノ時、東照宮モ京ニ上ラセ給フ、則十八日當驛御宿陣ナリ、東武談叢曰、文祿四年乙未七月、秀次ノ隱謀征罰ノ為、家康公モ上洛アルヘシトノ事ニテ、同十四日ニ飛脚江戸ニ到着ス、是ニ依テ翌十五日家康公江戸ヲ御出馬有テ云々十七日藤澤、十八日大磯云々、寛永十一年六月、御上洛ノ路次當

驛ヲ過ラセ給ヒ、濱邊御遊覽アリテ御詠歌アリ、柳營上洛記田、十一甲戌年水無月ノ中ノ十日ニ、江府ノ柳營ヲ出御ナラセ給ヒ、廿二日大磯ヨリ晝ノ御中ヤトリヲ出サセ給フ、御道スカラ海邊ノ眺望ヲ御詠覽アルニ、汀ノ松陰移リテ浪ニ浮ヘルサマ、イト興アリケレバ、ウツス繪モ及ハヌ山ノ海カケテ松ニ浪コス浦ノナカメハ、此御詠ヲ寛永御上洛道中尊詠ニハ、ウツストモエヤハ及ハム海山ノ松ニモ波ノカヽル詠メハ、トアリ十三年朝鮮人來聘ノ時、淺野又一郎長綱仰ヲ承ケ當宿ニテ三使ヲ饗ス、寛永譜曰、淺野又一郎長綱、寛永十三年、朝鮮國ノ三使來朝ノ時、相州大磯ニテコレヲ饗應ス、當驛、舊クヨリ宿驛ノ唱ヘアリシカ、東鑑文治四年ノ條ニ、大磯驛ト見エ、廻國雜記ニ、大磯宿ト云ヘル所ニテ云々トアリ、共ニ前ノ條下ニ引用セリ、寛文中ノ水帳ニハ、村ト書シ、元祿ノ國圖町ト記ス、其後何ノ頃ヨリ又宿ト唱

ヘケシ詳ニシ難シ、又東小磯村、加宿トナリシハ、寛文
以前ノ事ト傳ヘテ、詳ナラサレト、既ニ寛文ノ水帳ニ
ハ、加宿東小磯トアリ、東西二十九町半餘、南北十二町、
東、古花水川ヲ隔大住郡平塚宿、及ヒ本郡高麗寺村、西、西小磯村南海、北萬田、高根、二村戸數六百
七十八、内本陣三、一ハ小名北本町、二ハ南本町ニアリ、旅篭屋八十五、此内大家ノ分ヲ脇本陣ニ充ル
ト云、又此内東小磯村ニ住スル民數戸アリ、往還ノ左右ニ連住ス、此餘海邊
ニ漁者二百戸列住セり、當所北方ハ山ニテ、東南ハ海
濱ナリ、按スルニ、宗祇カ名所方角抄ニハ、大磯小磯トテ中間五六町アリ、南ハ汀ナリ、北ハ野ナリ、富
士ハ乾ノ方ニ見エタリ云々トアリ、今富峯往還ヨリ望マレス、北方ノ山ニ倚テ見ユルナリ、總テ古今ノ沿
革合考シテ識ルベシ、故ニ屢風波ノ難アルニ據リ、悉ク平家造

リナリ、板葺ノサマ、小田原葺ニ似テ少シク異ナリ、鳥葺ト名ツク、其製鳥ノ羽ヲ重子タルニ似タレ
ハナリ、農隙ニハ、其居ノ便宜ニ任セ、或ハ行旅ノ少憩ニ
酒食ヲ鬻キ、或ハ海濱ノ漁業ヲ以テ生産ヲ資ク、天文
ノ頃ハ、笠原玄蕃助ハ采地ニシテ、宿内海邊ニ居住セ
リ、東國紀行日、今夜旅泊ハ、此磯枕思ヒ出ナルヘシナト兼々ノ事ニテ、笠原玄蕃助知ル所ナレハ、先ニ人
遣ハシテ儲シタリ、タニハトテ一折ノ懇望アルノ由ニテ、若草ニ波モトヲヨル磯邊哉、旅宿ハ山陰ノ小
庵云々、永祿二年ノ役帳ニモ、笠原美作守カ知ル所ト云、日、笠原美作守、卅五貫文、中郡大磯、按スルニ、玄蕃美作同人ナルヤ父子相續ナセシモノカ未詳ニセス、檢
地ハ、寛文六年坪井次右衛門改ム、平岡三郎右衛門十五石三斗八升七合享保十七年、日野小左衛門一石、字虎ゟ

池新田ト云フ、寶曆七年、志村多宮二石二斗八合、明和七年、久保田十左衛門二石二斗八升、等カ檢地セシ新田アリ、東海道宿内中央ヲ貫ク、幅三間ヨリ五間ニ至ル、土人傳ヘテ今村ノ北方字駒留橋邊ヨリ凡二町許西ニ入リ、宿裏直道ニテ愛宕御林裏通リ、東小磯妙大寺、及ヒ御嶽社前通リ、字池、下立野ヨリ、西小磯村ニ通スル野道アリ、是古海道ナリト云、是非詳ナラス

高札場二　一ハ海手ニアリテ、浦方ノ掟書四枚ヲ掲ク、一ハ寛永八年、一ハ正德元年、一ハ享保六年、一ハ某年辰八月令セラル、所ナリ、

小名　山王町　神明町　南本町、北本町　南下町、北下町、　南茶屋町

問屋場二　一ハ南本町ニアリ、南組ト唱、間口五間　一ハ北本町ニアリ、北組ト唱間口三間半旬ヲ期トシテ相交リ勤ム、問屋年寄一人宛帳付四人、人足役馬指共二人宛日々交代シテ事ヲ執ル東海道ノ人馬西方足柄下郡小田原宿ヘ四里艮方大住郡平塚宿ヘ二十七町ヲ繼送ル又同郡田村ヘ二里半ノ脇道是ハ東海道ノ大路隣郡平塚宿地内ニテ北方ニ分ル、岐路ナリ、八王子道ト云ヲ繼送ル、人夫百人、馬百疋ヲ定額トシ、傳馬役地子一萬坪ヲ免除セラル、免除ノ年代、寛文以前ノコト、傳ヘテ詳ナラス、定助郷、高一萬千五十六石ハ元文三年六月證書ヲ賜フ、此村郡中十三村、大住郡十五村、都テ二十八村ナリ又加助郷、高三千四百八十二石八斗九升六合此村郡中一村、大住郡十六村、總テ十七村ナリヲ以テ、其

役ノ助ケトス、問屋給米七石、寛政十年ヨリ、繼飛脚給米二十八石九斗二升ヲ賜フ、安永三年十一月、當宿困窮ノ聞エアリテ、七ヶ年ノ間賃銭四割ヲ増賜ヘリ、期年ノ後、二割増ニ定ラレ、文化七年十月、又三割ヲ増加シ今ハ五割増トナレリ、

一里塚 宿ノ東、並木中ニアリ、方三間、高七尺、雙堠ナリ、北側ニハ栴檀樹ヲ植ウ、南側ハ古榎樹アリシカ、寛政九年枯槁セリト云、西方國府本郷村東方大住郡馬入村ノ里堠ニ續ケリ、

山 八俵山、高凡七丈許、寺山ニ續ケリ、高麗谷原山高六丈、王城山、高四丈、城跡ト傳フ、二子山高七丈、立石山、高五丈、東小磯ニ跨レリ下同、羽白山、高四丈、等ノ名アリ

御林二 一ハ東方字濱嶽ニアリ、段別三段九畝、一ハ西方愛宕ニアリ、段別八畝十五歩、共ニ松林ナリ、

俗ニ長者林ト云フ昔山下長者ノ庭園ニテ土中ヨリ折々古器出ツ慶長年間石燈籠ヲ堀出シ驛ノ某保存ス

化粧坂 東方並木ノ中間小高キ地所ヲ云、

唐ヶ原 或ハ諸越原トモ記ス、正保國圖ニ、稍平塚驛ニ接セシ海岸ノ地ヲ唐ヶ原ト題ス、サレバ古ハ其邊ヨリ高麗寺山麓ヲカケテ、一面曠莫ナル郊原ト識ルヘシ、宗祇カ名所方角抄ニ、北ハ野ト記セシモ爰ヲ斥セルナラン、今ハ彼山麓往還ヨリ東字濱嶽田畝トナリシ所ヨリ以南ヲノミ唱フ、彼山麓ナルカ故、高

麗ノ名ニモトツキテ此名ヲ負セシモノナラン、當所ノ名義並ニ古歌集、及紀行等ニ散見セシ事ハ、郡ノ圖說ニ詳載ス

海小餘綾磯附

宿裏巽方ニ在、艮方平塚宿濱境ヨリ、南東小磯マテ、長二十九町半餘、町裏ニ添テ浪除堤アリ、高五尺、敷一丈六尺、馬踏六尺荒海ニテ汐干鹽濱等ハナシ、船數四十ヲ置、廻船三、海士船十二、生漁船四、地引船三、以上每船ニ永錢五百文ヲ出ス、小船十八、是ハ百廿五文宛ヲ出セリ、此沖四時漁業ノ利多ク、地引網場三所アリ、所獲ノ魚ハ、鯛、甘鯛、比目魚、鮪魚、鯵、鯖、鰹、小鰹、鯷魚、鮫、鮑、鮟鱇等ノ類ナリ、此品江戸新場ヘ附送ルト云、海路浦賀マテ十七里、江戸迄ハ三十六里ト云、浪打際ヨリ一町許ノ間磯續ケリ、是ヲ古餘綾浦、巨余呂木乃宇良ト云フ、古ヨリ、小餘綾、磯、巨余呂伎乃濱或ハ巨由留木乃磯ト呼來タリテ、其名著ルク、萬葉集ヲ初トシテ、古歌ニモ往々詠出アリシ當國ノ名所ナリ、其證歌等ハ、郡ノ圖說ニ輯錄セリ、此地字海前寺下ノ邊ヨリ、砂利ヲ出セリ、時ニ公ヨリ費用ヲ賜リテ召上ラルト云、其種類五色、或ハ中粟、白斑、黑、小砂利等ナリ、

花水川　北方ニアリ、幅二十四間板橋長廿五間ヲ架セリ、橋南ノ岸邊ニ堤アリ、高七尺、敷二間、馬踏六尺

古花水川　北界ヲ流ル、濱寄ニテ前川ニ合ス、幅二間土橋ヲ架ス、長六間、幅二間半、

三澤川　西方王城山谷間ヨリ出、東流シテ海ニ入、幅三間

鴨立川　東小磯ノ山間ヨリ出、南流シテ海ニ入、幅二間海邊ニ近キ所鴨立澤ト云、是西行カ秋夕ノ詠ニ因レル舊跡ナリトソ、古歌及事實ハ鴨立庵條ニ詳ナリ故ニ此川名アリ

石橋四　共ニ東海道往還ノ惡水堀ニ架セリ、駒留橋、三味線橋、山王橋、境橋、筋違橋等ノ名アリ、各長四尺餘ノ小橋ナリ

虎子釜　字釜口ニアル空穴ナリ、方一間許、名義來由詳ナラス

山王社　常樂院持、

神明宮　法光院持、下同

天王社

熊野社　千手院持、

淺間社　慶覺院持、

地福寺　船着山圓如院ト號ス、古義眞言宗、京東寺寶菩提院末、關東五箇法談所ノ一ナリ、中興開山宥養、天和八年十二月二十五日寂ス、天文廿三年十一月、左馬頭晴氏ヨリ田園ヲ寄附アリ、所藏文書曰、相模國大磯郷、舟付之談所、地福寺、同郷之内、寺中南北畠貳町五段、弁田

一町、是者號坂田、須藤慶運寄進地之事、右爲當寺領所令寄附處也、者早守先例可致其沙汰之條如件、天文廿三年霜月十八日、地福寺、晴氏ノ華押アリ、按スルニ坂田ハ今字ニ残レリ、須藤慶運ノ事詳ナラス、

永祿二年八月北條氏ヨリ客殿修補ノ料ヲ收ム、日爲客殿修理方、每年五百疋宛被遣之候、但二宮六月関之内ニ而、桑原彌七郎前ヨリ可請取之、然者代一人、彌七郎奉行ニ相副於關庭可引取之旨、被仰出状如件永祿二年己未八月十八日、大磯地福寺、長純奉之、虎朱印ヲ押ス、天正十七年七月、北條氏直山内ノ禁制書ヲ與フ、曰、禁制書、寺内門前竹木草花剪取事、法會之砌諸人狼藉之事、於山林木草苅取事、并牛馬不可放事、旅人之宿不可致之事、付弓鐵炮ニ而鳥打事、寺中門前之畠可爲如先御證文事、已上右横合非分之輩有之者、可有披露、然ニ地福寺之儀、常勝寺拘之由、無相違旨被仰出者也、仍如件天正十七年己丑七月三日、大磯地福寺、山角孫十郎奉之虎朱印アリ、按スルニ、常勝寺ノ事今考ノヘカラス慶長十三年十一月十五日、住僧宥養台命ヲ蒙リ、淨土日蓮宗論ノ聽衆ニ撰ハレ營中ニ出仕ス、是天台眞言禪ノ僧徒十二人ノ其一ナリ、淨土日蓮宗論記曰、聽衆者眞言天台禪家龍象十二人、依上意兼日被召之、故當日拂曉各刷出仕之威儀、眞言家者高野山遍照光院頼慶大僧都、是判者也、伊豆山般若院快運法院、但他行也、大山寺ハ大坂實雄法印、大磯之地福寺宥養上人寺領六石四斗ノ御朱印ハ慶安二年八月賜フ所ナリ、本尊彌陀ヲ安ス、

寺寶

古文書三通、各前ニ注記ス、

五大尊畫像一幅、彩色ノ古畫ニテ、大福ナリ、筆者詳ナラス

護摩堂 不動ヲ置

金毘羅社 稲荷、天神合社、

圓城院 明星山ト號ス、本寺前ニ同シ 中興宥慶、仁安二年九月廿五日寂スト傳フ 本尊彌陀

東光院 船附山藥王寺ト號ス、本寺前ニ同シ 中興長盛、寛永五年十一月廿五日寂ス、本尊藥師ヲ安ス、秘佛トス、

福壽院 歡喜山ト號ス、前寺末 中興宥宣、延寶三年七月四日卒 本尊不動ヲ置ク、

稲荷社 天神社

千手院 遍照山ト號ス、本寺前ニ同シ 中興ヲ宥傳ト云、延寶四年五月廿日寂ス、本尊不動、

塔前寺 金龜山ト號ス、本寺前ニ同シ 中興宥眞、本尊地藏ヲ安ス、

稲荷社

鐘樓 延寶二年鑄造ノ鐘ヲ掛

楊谷寺 灯燈山明星院ト號ス、天台宗高麗寺村高麗寺末、元ハ門徒タリ、享保六年八月末寺トナルト云 寺傳ニ、當寺ハ永正元年、伊豆國養國寺ヨリ此地ニ移ルト云フ、モシクハ此地楊谷ノ唱アレハ、モト養國寺ト號セシヲ、此ニ移リテ文字ヲ改シモ知ルヘカラス、寺傳他ニ據トコロ無レ

ハ今考ヘカラス、開山慶傳中興眞純元文四年八月廿七日寂ス、

本尊藥師、長四尺八寸、行基作、

慶覺院　小淘綾山東昌寺ト號ス、高麗寺門徒、下ニ寺是ニ同シ、本尊阿彌陀、長一尺、慈覺作、惠心筆來迎佛ノ畫像一幅ヲ寺寶トス、

法光院　海見山香取寺ト號ス、中興慶山、享保十八年九月四日寂ス、本尊地藏

常樂院　灯燈山明星寺ト號ス、本尊地藏ヲ置ク

妙輪寺　福聚山ト號ス、日蓮宗、鎌倉比企谷妙本寺末、開山日輪、大經院ト號ス、本寺三世ナリ、延文四年四月四日寂ス本尊三寶ヲ安ス、又日蓮長三尺、日法作、疱瘡身代守護ノ像ト云日輪ノ像ヲ置ク

什寶

日蓮眞筆一軸其文ニ人師ノ釋、所依ノ經論ニ相違セル事トアリ、高祖眞筆疑ナキ由、享保十七年正月日顗ノ裏書アリ

曼荼羅一軸、延文二年十二月日、日輪ト記ス華押アリコハ二世日尚ニ授與ノモノナリ

毘沙門堂、本尊ハ傳教作、長大寸廚子ノ裏ニ住僧日壽修補ノ記アリ、曰、根本傳教大師之御作而、勅滿願寺日量聖人年来所信敬也、弟子顯道院日壽、臺座宮殿修補之、别在佛工定朱矣、按スルニ、此定朱ハ、佛師駒井安之進カ、明和七年寅十月、駿州富士郡河合村妙興寺顯道院ヘ贈リシ書ニテ傳教大師眞作ノ由ヲ記ス、顯道院日壽

後當寺ニ住職スルニ及ヒ、持シテ此ニ安セシナルヘシ、爰ニ鬼子母神、稲荷ノ二像ヲ合セ置ク、

鐘樓、延享四年ノ鑄鐘ヲ掛

延臺寺 宮經山ト號ス、法華宗、甲州身延山末、開山日道、本寺十九世、慶長七年十二月十二日寂ス開基ハ宿内ノ民次郎右衛門、慶安元年二月十四日死ス法名法性院日淨、今此家退轉セリ本尊三寶祖師、及鬼子母神、十羅刹女、開山像ヲ置ク、

番神堂、寛永八年、檀越今村傳四郎正長、造立ノ由棟札ニ見ユ、日、信心旦越今村傳四郎正長、法號了知院法仙日泰、圓臺寺鎭守番神ノ寶殿建立之、寛永八年五月如意珠日、日還ト記ス、鬼子母神、傳教作、長七寸、遊女虎カ守護佛ト傳フ、辯天、虎池辯天ト稱ス、名義ノ傳ヘアレトモ、信用ナラサレハ贅セス、七面等ヲ合セ安ス、

虎子石 番神堂中ニ置ク、長二尺一寸、幅一尺許、高四寸五分、青黒色ナリ、重三十六貫目許曾我十郎祐成身代リ石ト號ス、石面ニ鏃痕アリ、其昔十郎祐成、遊女虎カ許ニ通ヒシ夜、怨嫉ノ者遠矢ヲモテ射タリシカト、此石其所ニ飛到リ、其矢空シク石ニ中リテ、祐成恙ナカリシカハ、虎奇トシテ歡ヒ、深ク是ヲ愛玩セシトソ、彼カ遺愛ノ石ナルヲモテ、虎子石ト稱スト傳フレト、信シ難シ、林道春カ丙辰紀行ニ、此石ノ吟アリ、日大

磯ニ、曾我十郎カ妾虎カ舊跡アリトテ、一ノ石ヲ人々集リ見テ、モタケコロハカシナトシテ、昔ヨリ虎石ト名ツケ今ニアリ十郎慷慨愛於莵、血氣武人犀甲軀、妾婦當時誓星否、頃感二此石一似望夫、又林春齋カ癸未紀行ニモ詩アリ、曰、大磯路邊有二虎石一、虎娘元是倡家人、同契二貪郎一捨二此身一、今日堪レ憐遊宴地、唯題片石問二遺塵一、舊ハ鴫立澤邊ニ在シヲ廿年許巳前爰ニ移セシト云、今ハ錦ヲ纏ハシテ猥ニ見ル事ヲ禁ス、

大運寺 群生山普廣院ト號ス、淨土宗、芝増上寺末、開山秀譽、讃蓮社ト號ス、元和中寂スト云フ、中興相譽寶蓮社ト號ス、寛文二年八月廿四日寂ス、本尊彌陀、惠心作長三尺、ヲ安ス

海前寺 龍澤山寶珠院ト號ス淨土宗、武州鴻巣勝願寺末、中興貞譽、尊蓮社ト號ス、慶長二年二月寂ス、本尊三尊彌陀ヲ安ス、

善福寺 龍頭山花山院ト號ス、一向宗、京西六條本願寺末、天正中一旦東派ニ轉シ、安永二年再本門ニ屬ス、開山了源、寺傳ニ據レバ、伊東入道祐親カ二男九郎祐清カ子ニシテ、祐清木曾義仲ノ爲ニ討死ノ後、外祖父狩野介ニ養ハレ、伊東四郎祐光ト稱ス、後叙爵シテ左衛門尉ニ任セラレ、當國平塚ヲ領シ、花水ノ邊宿河原ニ居住ス、和田合戰及ヒ承久ノ亂ニ勳功アリ、然レドモ常ニ名利ヲ避ル心深ク、遂ニ嘉祿元年五十六歳ニシテ世ヲ遁ルト云ヘリ、大谷遺蹟録ニハ曾我祐成カ子ト云、三浦郡東浦賀乘誓寺ノ傳記ニモ祐成カ子トシ、母ハ大磯ノ虎女、童名祐若河津三郎信之ト稱スト見エテ、其傳ヘ一定セス、今按スルニ、寺傳ニ云處、祐清カ事蹟、東鑑ト異ニシテ、且祐光カ平塚ヲ領セシ事、其餘軍功ノ聞エ、所見ナクシテ疑ハシキ事多シ、又祐成カ子トスルモ父子ノ年齡合セサレハ、最誤ナル事決セリ、親鸞ノ徒弟、關東六老僧ノ一ニシ

テ、第二座ニ居レリ、初ハ名家ノ宗脈ヲ受テ、平塚入道法求ト號シ、花水ノ幽栖ニ在リ大谷遺蹟録ニハ、初名家タリシ事ヲ云ハス後高麗權現ノ別當職ニ補セラレ、寛喜元年更ニ親鸞ノ徒弟ト成テ、一向專修ノ徒トナリ、法名ヲ了源ト改ム、師ニ隨從シテ巡歩スル事數、師其至誠ヲ感シテ手ツカラ太子ノ像明暦二年三月四日、東派本山宣如ノ懇望ニ因テ、本願寺ニ收ム、及自己ノ壽像長二尺三寸五分、今本堂ニ安ス、ヲ刻シテ授與ス、源歡喜ノ餘リ一宇ヲ起立ス、堂寺則是ナリ、建長三年三月十二日寂ス、時ニ八十二、大谷遺蹟録ニハ六十トアリ當時モ西派タリシカ、天正十八年関東御入國ノ

後、名命ニ因テ一旦東派ニ屬シ、數年ヲ歷テ安永二年十二月、再西派ニ歸スト云、已上鐘銘ニ見エタリ、本尊彌陀、舊ハ門内北方ニ一宇ノ支院アリテ、元禄十四年寺號ヲ負セ、善念寺元禄十四年九月廿日、東本願寺ヨリ出セシ寺號ノ免許状アリ、今當寺ニ藏スト號セシカ今ハ廢セリ、

寺寶

太子自作像、長三尺二寸、正徳三年江府ヨリ收シト云フ

名號石、長四寸許、幅二寸、名號ハ宗祖ノ筆ト傳フ、

古冑二、傳来詳ナラス

鐘樓　文政十三年再鑄ノ鐘ヲ掛ク、

巖窟 本堂ノ北ニアリ、高八間横十三間 其狀龍頭ニ似タリ、當寺山號ハ此ニ起ルト云、又巖上ニ松ノ大樹兩三株庇蔭ス、往古此松上ニ龍燈上リシト傳フ、故ニ舊クハ龍燈石ト號セシトモ云窟十所アリ、大三尺ヨリ四尺ニ至ル 窟中ニ地藏 弘法作、長一尺ニ寸ノ石像ナリ ヲ安ス、此邊往古ハ宿河原ト唱ヘ、開山源カ幽居ノ地ト云ヒ、又昔和田酒モリノ有シ地トモ云フ、

不動堂 慶覺院持、

鴫立庵 加宿東小磯村境往還南裏ニアリ、秋暮亭或ハ東往舍 東往ハ中興ノ庵主三千風ノ號ナリ、 ト號ス、額三面ヲ揭ク一ハ鴫立庵、黃檗高泉筆、一ハ秋暮亭、難波ノ僧悅山筆、一ハ東往舍、江府東江筆、此地ヲ鴫立澤ト唱フル事ハ、昔西行東國行脚ノ時、此所ニテ秋夕ノ秀歌アリシヨリ名ツクト云、山家集曰、秋モノヘマカリケル道ニテ、心ナキ身ニモ哀ハ知レケリ鴫立澤ノ秋ノ夕暮此歌新古今集ニ入ラレタリ、又西行物語曰、相模國大庭ト云所、砥上カ原ヲ過ルニ其夕暮方、澤邊ノ鴫ノ飛立音シケレハトテ、彼歌ヲ載ス、按スルニ大庭、砥上カ原共ニ高座郡ノ地名ニシテ、此ニ的當セス、尤此物語ハ、中古好事者ノ作リ設ケシ物ト見ユレハ、信スルニ足ラス サレト、舊クハ其名世ニ聞エス、文明中ニ至リ、准后道興此所ニテ土人ノ物語ヲ聞、舊情ヲ想像シテ詠歌アリシ事、廻國雜記ニ見ユ、日鴫立澤ト云所ニ至リヌ、西行法師爰ニテ心ナキ身ニモ哀ハ知レケリト詠セシヨリ、此所ヲ斷ハ名ツケ侍ル由、里人ノ

語リケレハ、哀知ル人ノ昔ヲ思ヒ出テ鴫立澤ヲ
泣々ソ問フ、又是ヨリ先ニ慈鎮カ、建暦二年日吉社
法樂ノ百首中ニ、タマクレ鴫立澤ノ忘水思ヒ出ト
モ袖ハ濡ナン、ノ詠アリ、即續古今集ニ入ラレタリ、
是ハ雉立澤ニエク摘ハ、或ハ鴫立野ヘノ曉、ナリト
詠レシ類ナラ予ト、彼西行カ秀歌ノ情ヲ感シ、思ヒ
寄セラレシノミ、一所ノ名ト
シテ出詠アリシニハアラス、是地名ノ物ニ見エタ
ル始ト云ヘシ、夫ヨリ數年ヲ經、寛文ノ始、崇雪小田原ノ
人ナト云者此ニ幽栖ヲ營ミ、五智如來ノ石像ヲ造
リ、今庵後ニ在、臺石ニ、寛文四年
立シ、十一月吉辰、崇雪造ト刻セリ、且鴫立澤ト刻セ
シ標石ヲ建テ、其古跡タルヲ知ラシメシカ、猶世ニ
識ル人稀ナリ、其後飛鳥井亞相雅章、關東下向ノ時、
舊跡ヲ尋子、即詠一首ヲ授與アリ、自筆ノ短冊今什寶トス下ニ摸出

セリ元祿元年間、又三千風ト云隱士、此ニ來リテ閑居
シ、箱根温泉道之記ニ據ニ三千風ハ勢州ノ人ニテ、
其家富リ、然ルニ其性深ク佛門ニ歸依シ且風流
ヲ好ミ常ニ隱遁ノ志アリ遂ニ書ヲ遺シテ出奔ス、
親戚其跡ヲ見ルニ行方ヲ知ラス、六七年ノ後、彼家
ノ主管、江都ヘ下ル序、不圖爰ニ立寄ケルカ、机ニ倚
タル法師アリ、見レハ古主ナリ、如何ニカ爰ニオハ
スト云フニ、法師聞テナツ我ハ汝ヲ知ラスト云フ、
言ヲ盡セト猶知ラストノミ答シカハ、爲方ナクテ
古郷ニ歸リ、再親族ヲ井テ爰ニ來シカト、見知ラヌ
僧ノ居テ、サル人ハ知ラスト云ニ、親族モ今ハスヘ
ナシトテ夫トハナク費用ヲ資ケ、彼亞相雅章カ眞
三千風遂ニ爰ニ終リシト云ヘリ、
蹟ノ詠歌ヲモテ、名所ノ證トシ、後又京ニ入テ西行
ノ古像ヲ得シカハ、一字ノ堂ヲ建テ是ヲ安シ、澤見
ノ西行ト稱シテ騷人詞客ニ乞ヒ、詠吟居多ヲ集シ

ヨリ當國名所ノ一ト稱セラレ、其名諸州ニ聞ユ、是ヨリ諸方ノ雅人此地ヲ尋子、或ハ此邊ノ勝景ヲ江州ノ八景ニ擬シ或ハ廿四景ト唱ヘ詩歌此ニ集リテ、遂ニ春帙ヲナセリ今猶三千風カ餘風ヲ逐ヒ、俳諧者流ノ隱士居住ス、庵ニ掟書一通アリ、曰、鴫立庵永々定之

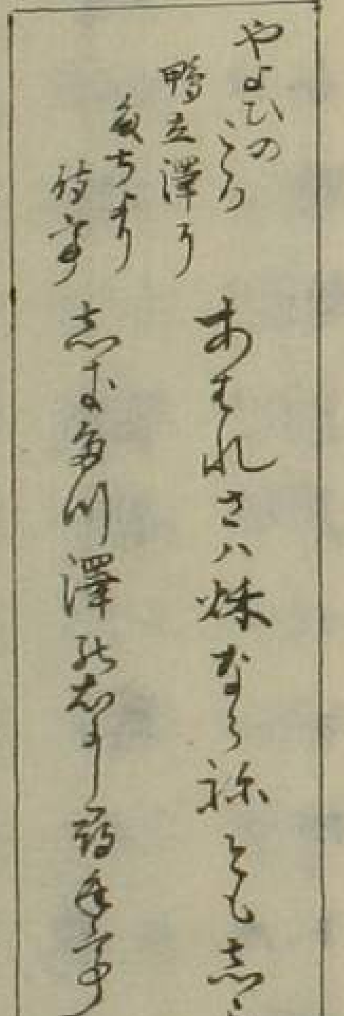
事、出世僧不可居事、本寺仕配不可販事、此澤賣買致間敷事、元來辻堂ニテ除地ノ事、代々眞言宗ノ可為道心事、永々地福寺可為且那事、道心者二人ノ外不可居事、且暮鉦鼓念佛可勤事、麻ノ衣木綿ノ外不着事、常夜燈間斷有間敷事、右ノ條々堅相守侍ハ、永々富貴安樂ナルヘシ、若自然ノ事アラハ、時ノ名主年寄衆ニ相談有ヘシ、分テ平田氏ノ方人ニ隨フヘシ、違背アラハ追放有ヘシ、則此掟當所ノ萬年帳同前ナリト記ス

年月日ナシ

是三千風カ定ムル所ナリ、

什寶

短冊一葉 飛鳥井亞相雅章眞蹟



色紙一葉 西行ノ眞蹟ト傳フレトモ全贋物ト覺ユ、

竹杖一本、長五尺二寸、上ニ一節アル甚奇竹ナリ、是西行カ遺物ト云ヘト信スヘカラス、

松平左近将監乘邑短冊一葉、寶永二年ノ秋通リケルトテ、今モ猶昔ノ秋ヲ思フソヨ鴫立澤ノ夕暮ノ空、從五位下乘邑トアリ

西行堂 木像ニテ、文覺鈍作リノ古像ト傳フ、是庵主三千風、京ニ遊歷セシ時、或僧ヨリ傳來セシト云傳フ、

虎尼堂　遊女虎カ十九歳ニテ發心ノ肖像ヲ置ク、江戸吉原町、娼家自得齋ト號セシ者、本願主トナリ寄附セシト云フ、

鴫立碑　元禄十三年二月、庵主三千風カ建ル所ナリ、長臺共ニ九尺三寸、幅二尺三寸、即自作ノ長歌一首ヲ刻ス、

前川氏辭世ノ碑、泉州黒田石ヲモテ造ル、氏ハ三千風カ雅友ナリ、在世ノ際カ子テ辭世ノ一言ヲ乞シ時、贈ル所ノ詠歌ヲ彫ス、遺言ニ、云ヘキコトモナカリケリ其ナキ物ヤカタミナルラン、江戸本町心月道周居士、次ニ我モ合點顔シテ、ナキ物ト云ヘキ物モナキ故ニナキ名オホセシ石板碑、喝風居士ト刻セリ、

三千風碑　根府川石ナリ、在世ノ際躬ツカラ建ル所ナリ、鴫立シ澤邊ノ庵ヲ葺カヘテ心ナキ身ノ思ヒ出ニセン、又鴫立テナキ物ヲ何喚子鳥、生國勢州射和、東往居士三千風墓ト刻ス

碑二基　一ハ深草元政カ西行ノ讃詞ヲ鐫レリ、日好名之人不レ受ニ千金一、欲利之士不レ捨ニ一針一、西行之於ニ銀猫一也、輙受焉、即捨矣、可レ見ニ其無ニ名利之心一也、文覺之強直也、一見望風焉、又可レ見ニ其所レ養之深一也、孔子曰、根也慾焉得剛、吁非レ無ニ名利之心一、豈得ニ所養之深一也哉、按スルニ、此詞扶桑隠逸傳ニ載スル所ナリ、一ハ戸田茂睡カ建シモノナリ、中央ニ、鴫立澤戸田茂睡蕪光、左右ニ、哀思ヘ昔ノ秋ノ夫ナラテ鴫立澤ニ殘ス我名ヲ、横ニ天和三年三月廿五日、為ニ七息一高野詣之序造レ之ト鐫ス、

鞍掛石　字沓形往還ノ西畑中ナリニアリ、方二間許、往古、鞍ヲ掛シ事アルヲモテ名ヲ得シト云、

猫塚　同所ニアリ、方九尺許、由來詳ナラス、土人傳ヘテ、花水橋修理ノ時、此塚ヲ穿シニ、小石累々ト埋レリ、其邊ニ、粟粒色ノ土塊出ツ、是ハ枯骨ナルヘシ、又其下ニ石櫃アリ、鬼祟ヲ怖レ、元ノ如ク埋シト云フ、

御茶屋跡　宿内地福寺域ノ邊ヲ唱フ、其廣袤定カナラス、廢セシ年代モ詳ナラス、寛文中ノ水帳ニ、御茶屋替地高三石程ト云事見エタリ、文祿四年七月、東照宮當宿ニ御着陣アリシ事、又寛永十一年、大猷院殿御上洛ノ時、晝ノ御中舍リ在セラレシ事ナト、皆當所ノ事ナルヘシ、事ハ前ニ詳ナリ、又此所ノ接地、本陣才三郎カ宅地ノ邊ニ、御廐道ト號スル字アリ、寶永二年迄其道幅二間、長廿六間存在セシカ、是年十二月、御拂地トナリシヨリ、今ハ年貢地ナリ、當時才三郎カ祖先、買得セシ事、彼家所藏ノ文書ニ見エタリ、曰、覺、屋舖一畝廿二歩、此代永五貫五百十六文七分、右者相模國淘綾郡、大磯町並表口二間、裏行廿六間之御廐道、此度御拂入札申付候處、落札ニ付書面之代金請取之、右屋鋪相渡候條、永可為地主者也、寶永二年酉十二月、大磯町才三郎へ、平岡三郎右衛門、

蓮華寺蹟　字愛宕御林ノ下ニ在、本尊彌陀ハ宿内慶覺院ニ收ム、古ハ宿南ニ在シカ、元和六年八月、宿民ニ其地ヲ讓與ヘ、宿民又兵衛所藏文書曰、渡申蓮華寺屋鋪之事、右是者上町屋鋪割ニ付而、寺地ニ相抱置候、依之蓮華寺從前々屋鋪之内、貴所ヘ半分被相抱候、殘而居地計ニ而、寺地ニ不相

成候、貴所上町之抱地上ニ、蓮華寺建立仕候ニ付而、先屋敷搦、貴所ヘ永渡シ申、此為地領金子一両一分請取申、蓮華寺相建申候、若從横合此屋鋪之儀ニ付而異議申者有之付而者、吾々罷出子細可申分候、為後日如件、元和六年庚申八月十二日、石井又兵衛殿参蓮華寺、揚谷寺、各華押、再建セリ、其後廢セシ年代詳ナラス、今ノ廢跡ニ

穢多助左衛門 小頭役ナリ、當宿及五ヶ村大住郡伊勢原、岡田、田村、三村、高座郡田名村、藤澤宿ナリ、ノ黨類ヲ支配ス、宿内ニ配下十八軒アリ、鴫立川ノ東、又三味線堀橋ヨリ東、壷木向ニ散在ス、此内八郎右衛門ト云者、通閑散、又截雲丹ト云妙藥ヲ出ス、江戸ヨリ多ク乞求ル人アリト云、

加宿東小磯村比加志巨伊曾牟良 往古ハ、此地及ヒ大磯宿西小磯村共ニ一區タリ、後ニ分シ、大小ヲモテ分チ唱フ、大磯小磯ノ別稱、古記ニ散見セリ、本宿ノ條ニ併セ引用ス、其後小磯ノ地、東西二區ニ分チ唱フル事其年代詳ナラサレト正保ノ國圖ニハ、小磯トノミ記シテ其別ヲ云ハス、但シ此頃モ、小名ノ如ク土人私ニハ別稱セシモ識ルヘカラス、寛文ノ水帳ニ、初テ加宿東小磯ト記セリ、是ニ因テ按スルニ、正保已後全ク東西二村ニ分拆シ、其後寛文已前加宿トナリシモノカ、又此地ヲ裂テ加宿トナスニ及ヒ、自然東西二區ノ別稱起リシモノカ、今詳ニシ難シ、村内ノ諸事ハ、總テ本宿ト共ニシ、只年貢割付等ノ事ハ各別ナリ、延寶二年、坪井次右衛門良充、七斗一升九合、寶曆七年

三石八斗七升九合同九年一斗一升、ノ両度、志村多宮カ検地セ
シ新田アリ、東海道村南ヲ通ス、幅本宿ニ同シ
小名　南臺町、高地ナル故此唱アリ、民家左右ニ列住ス、
山　泡多羅山、此山萬田村ニ跨レリ　立野山、不老門山、堀切山等
ノ名アリ、就中立野山ハ、夫木集相摸ナル立野ノ山ノ忽ニ居ニ逢ント
思ハサリシヲ及ヒ、宗祇カ名所千句、霧迷フ小餘綾ノ磯ノ歸ルサニ、荒ク立野
ノ山風モウシ、等ニ見エテ、其名舊ク聞エタリ、
御林二　共ニ、字濱邊ニ在リ、松林ナリ、一ハ八町四段二畝廿三歩半、
一ハ一町六段三畝四歩、新御林ト呼フ、是ハ村内里正ノ祖父久右衛門、四十年前ヨリ松苗木植立、文政
五年官ニ申テ、御林トナリシナリ、年々落葉永八十八文三分ヲ収ム、

御嶽社　鎮守ナリ、神體三軀ヲ置ク、例祭九月九日、妙
昌寺持、
一本松稲荷社　妙昌、妙大、二寺ニテ隔年ニ進退ス、
妙昌寺　大乘山ト號ス、日蓮宗、鎌倉比企谷妙本寺末、當寺往古
ハ、妙大寺地續ニアリシト傳フ、轉地ノ年代詳ナラス、舊地ハ今ニ妙昌
寺古屋敷ト唱フ、本尊三寶四菩薩、及祖師ノ像ヲ安ス、中興
ヲ日征ト云、是應仁中ノ住職ト云ヘト、來歷總テ詳
ナラス、鬼子母神堂　本尊長六寸ハ傳教ノ作ト云、享
保十三年、本寺輪番日辰カ書セシ、略縁起ニ據レハ、
往昔京ニ榮信ト云僧アリ叡山ノ麓ニテ此像ヲ感

得シ、後僧日慶ニ附與ス、慶又寶永二年、當寺ノ現住日隆ニ授與セシモノト云フ、

妙大寺 乘勝山ト號ス、本寺前ニ同シ、開山日語、法性院ト號ス、文明二年三月十七日寂ス 本尊三寶、四菩薩、鬼子母神、及日蓮ノ像ヲ置ク、

寺寶、

日蓮筆、首題一幅、弘安三年日蓮ト書シ華押アリ、又側ニ俗稱太郎ト記セリ

同筆、聖教之切一幅、外ニ日惺ノ鑒定書アリ、日此汝等之三行半、大聖人之御直筆、從二甲府法華寺日珖一、妙大寺ニ寄附ス、慶長三年三月十八日日惺ト記シ、華押アリ、

日向筆、曼陀羅、弘安六未年十月八日日向、四条金吾頼本與レ之ト記セリ、

日詔筆、曼陀羅、慶長十三年正月廿三日日詔トアリ

妙正明神子神合社、

西小磯村 爾志古伊蘇年良 往古ハ大磯宿、及加宿東小磯共ニ一區タリ、後大小二區ニ分レ、後又小磯ノ地、東西二區ニ分割セシ事ハ、既ニ大磯宿及ヒ東小磯村ノ條ニ辨セシカ如シ、江戸ヨリ行程十六里三十町、戸數百三十九、廣十三町、袤十八町許、東、大磯宿、西、國府本郷村、南ハ海、北、寺坂、萬田二村 北條氏ノ頃ハ花之木ノ所領タリ、役帳日、花之木、百貫文中郡小磯 今御料所、及ヒ充林幸之助、堀中務、等ノ知ル所ナ

り、文化八年、村高ノ内、新田トモ分割シテ、両氏ニ賜フ、檢地ハ、寛文六年、坪井次右衛門良充改ム、又享保十七年、日野小左衛門十石一斗二合、寶暦七年、志村多宮四石二斗三升三合カ檢地セシ新田アリ、高入トナル、東海道幅三間中央ヲ貫ク、傳ヘ云、村内切通開ケサル巳前ハ、北ノ方宇賀神森ノ後通リ、山ニ添テ往還セシト云、今野道アリ、則大磯宿ノ條ニモ辨セシ、古海道是ナリ、又北方ニ分ル、岐路アリ、伊勢原道ト云、小名中分ヨリ分レテ、萬田村ニ達ス、村北萬田村境ニ秣塲アリ、當村、及ヒ大磯宿、東小磯村、萬田村等入會ナリ、

高札塲

小名　本郷、田中、西方、高砂、中分、

城山　西方ニアリ、登一町許、頂ニ老櫻樹アリ、コハ長尾左衛門尉景春カ被官越後五郎四郎カ籠リシ城跡ナリ、文明九年太田左衛門入道ニ責破ラレシ事、鎌倉大草紙ニ見エ、曰、文明九年、長尾左衛門尉景春、謀叛ヲ起シ、上杉顯定ヲ亡スヘキ企アリ、相州ニハ景春カ被官人、越後ノ五郎四郎、小磯ト云山城ニ楯籠ル、太田左衛門入道、下知シテ扇谷ヨリ勢ヲ遣シ、同三月十八日、小磯ノ要害ヲ責ラル、一日防キ戰ヒ、夜ニ入ケレハ、越後五郎四郎不叶シテ城ヲ渡シテ降参ス、此他萬田、寺坂境、總テ連山ナリ、

御林四　各松林ナリ、一ハ三段三畝、一ハ一町四段四畝廿歩、一ハ二段六畝七歩、一ハ九畝、

切通　國府本郷村境ニアリ、幅三間許、即東海道往還ナリ、

海南方ニアリ、此海濱ヲ小餘綾浦ト云フ、潮干五間、地引網ヲモテ鰺鯖等ヲ獲、

切通川　村北ノ山水二條、會合シテ南流シ、幅二間半、東海道往還、字切通ヲ横キル、故ニ此川名ヲ得、直ニ村内ニテ海ニ沃ク、

溜池　北方、字八木澤山下ニアリ、長三十間、幅十八間、公費ヲモテ修理セラレシカ、中絶シテ今ハ形ノミヲ存ス、

十二所權現社　村ノ鎮守ナリ、神體白馬ニ乘リ弓矢ヲ持リ、往古ハ白岩權現ト號セシト云、白岩ハ所ノ字ナリ、例祭ハ正月七日、流鏑馬式アリ、村民八右衛門是ヲ勤ムト云、天正十九年

十一月、社領一石ノ御朱印ヲ賜フ、松樹一株アリ、圍七尺五寸、神木ト唱フ、金龍寺持、下同シ、

鐘樓、　天保四年ノ鑄鐘ヲ掛ク、

牛頭天王社　是モ村ノ鎮守トス

宇賀神社　畑中ニ小祠ヲ建、村持、

金龍寺　小磯山ト號ス、古義眞言宗大磯宿地福寺末、中興ヲ深譽ト云、本尊不動ヲ置ク、又弘法ノ畫キシ不動及ヒ八祖ノ像アリ、

圓昌寺　白岩山ト號ス、本寺前ニ同シ、不動長二尺九寸、明惠作、ヲ本尊トス、

天神社、

觀音堂 金龍寺地境、西方除地内、石階ノ上ニ建リ、本尊十一面觀音長二尺七寸、行基作、及ヒ前立アリ、此堂、元ハ字觀音谷ニアリテ、別當ヲ真樂寺ト云今廢ス、縁起ニ據ルニ、光明皇后ノ守本尊ニテ、良辨僧正鎌倉ニ下向シ、少刻由比郷ニ安シ、後此地ニ安置スト云、真樂寺廢絶ノ後、何ノ頃カ當所ニ移轉シ、今ハ金龍寺ノ持ナリ

鐘樓、寛政元年ノ鑄鐘ヲ掛ク、

藥師堂 村持下同

阿彌陀堂ニ

大日堂

觀音堂跡 字觀音谷ニアリ、村内觀音堂ノ舊地ナリ、今洞穴ニ觀音ノ石像ヲ置キ眞樂寺觀音堂跡ト云傳フ、眞樂寺ハ子達山ト號シ、古義眞言宗ニテ、村内東泉院今廢ス末ナリ、即此堂ノ別當タリシトゾ、東鑑建久三年八月ノ條ニハ、新樂寺ト記セリ、曰、建久三年八月九日、御臺所御産氣、鶴岡、相模國神社佛寺、奉ニ神馬一、被レ修ニ誦經一、新樂寺小磯 廢セシ年代詳ナラス、金龍寺藏觀音堂ノ縁起ニ據レハ、元弘ノ亂ニ兵火ノ為ニ燒拂レ、廢絶ニ及シト云

東泉院蹟 除地ニテ、今ハ金龍寺ノ進退ナリ、當院ハ

古義眞言宗ニテ大磯宿地福寺ノ末ナリシト云、

高麗寺村加宇羅以慈年良江戸ヨリ行程十五里餘當村名ハ村内高麗寺ニ因テ近ク名ツクル所ナレトモ、元来舊キ唱ヘニテ、續日本紀ニ靈龜二年五月、駿河、甲斐、相摸、上總、下總、常陸、下野七國ノ高麗人千七百九十九人ヲ以テ、武藏國ニ移シ、高麗郡ヲ置トアルニ據レハ、當國モ其住國タリ、サテハ當時高麗人此地ニ屯居セシナルヘシ、故ニ地名モ是ニ起リシ物ト云ヘシ、又柿本人麻呂集ニ、唐里毛呂古之乃左登ノ唱アリ、曰、東路ノモロコシノ里ニ織テタツ衣ヲヤ唐ノ衣ト云ラン、按スルニ、是ハ五畿七道ノ國名ヲ物名ニ詠セシ中ニテ、即佐渡ヲ隱セシ歌ナリ、詞書ニ據レハ、後人ノ後ニ書添シモノニテ、全人麻呂カ眞詠ニハ有サルヘシ、弘仁已後ノ詠ト識ラル、是其因ニテ、ヤカテ此地ノ古名ナラン、猶此邊ニ、唐ヶ濱、唐ヶ原ニ所ノ事、郡ノ總說ニ詳ナリ、ナト唱フル地名、舊キ物ニ見エ、今ニ至リテモ、唐ヶ原ハ現存セリ、是其遺名ナリ、又按スルニ、倭名鈔、大住郡ノ郷名ニ、高來ノ名アリ、唱ヲ註セサレト例ニ據レハ、多加久ト唱シナラン、彼郡中斥スヘキ地ナシ、若郡界變遷アリテ、本郡中ニ分隷セシニヤ、今高麗寺、弘安十一年ノ鐘銘ニ、高來寺ト記スルヲ證トスル時ハ、此地ノ舊名ナリトモ云ヘシ、字音ヲモテ唱

レハ、然云ニモ聊據ナキニ有サレト、是ハ迂遠ノ考ニシテ的シ難シ、柳當村ハ元ヨリ大磯宿ノ内ニテ、總テ高麗寺領タリ、天正十九年、更ニ賜フ所ナリ、文禄三年、伊奈備前守忠次檢地セシ時偶村名ヲ稱スト云ヘトモ、猶大磯宿ノ内ト傍記シ、正保元祿兩度改定ノ國圖ニモ、未村名ヲ分記セス、全ク分レテ一村トナリシハ、近キ寛政中ノ事ト云、民戸四十三、東西八町餘南北七町餘、東、大住郡平塚宿西南、大磯宿北山下高根ニ村、毎年三月、高麗權現祭禮ノ時市立リ、十七日ヨリ十九日迄ヲ定日トシ農具ヲ鬻ケリ、東海道南北ニ貫ク、幅三間半飛地二所ニアリ、一ハ大磯宿、一段二畝一ハ大住郡上平塚村、一町二段八畝七歩、又花水川ニ傍テ、流作場一段五歩アリ、

高麗寺山 坤方ニアリ、登八町許、此邊ノ高山ナリ、山上ニ高麗權現ヲ祭ル、後背ニ古松樹アリ、永盛松ト唱フ、圍一丈五尺、其邊別當高麗寺ノ舊地ト云、故ニ山ニ名ツクト云ヘリ、

花水川 中程ヲ流ル、幅二十五間堤アリ、高二間

古花水川 東北境ヲ流ル、幅二間、

高麗權現社 高麗寺山ノ頂ニアリ、又左右ノ峯ニ、白山毘沙門ヲ勸請ス、以上合テ高麗三社權現ト號スト云、社傳ニ據ルニ本社祭神ハ、神皇産靈尊ニテ、

應神天皇、神功皇后（此二體ハ、安閑帝ノ御宇合祀アリシト云）ヲ相殿トスト傳ヘ、當社ハ、往昔神武帝勅シテ勸請シ給ヒシヲ、後武内大臣ノ奏聞ニ依テ、又神璽ヲ勸請セラレシト云フ、凡テ神秘トシテ、猥リニ見ルコトヲ禁スルカ故、詳ニシカタシ、又箱根山縁起ニハ、神功皇后三韓ヲ征セシ頃、高麗ノ神ヲ當所ニ勸請アリシト傳ヘ、（日、神功皇后討三韓、後武内大臣奏云、奉請異朝大神、而令祈願天下長安寧矣、即奉遷百濟明神于日州、奉遷新羅明神于江州、奉遷高麗大神和光于當州大磯、峰因名高麗寺、）小田原記ニハ、永正十六年、北條氏綱、伊豆山ニ詣テシ時、別當般若院ニ、當社ノ縁起ヲ尋子シニ、往昔高麗國ヨリ

渡海アリテ、此山上ニ鎮座アリシト答ヘシト載セ、（日、永正十六年ノ頃、氏綱伊豆山ヘ御参詣アリ、當山ノ別當般若院ニ被仰付、縁起ヲ御尋アルニ、當社權現ハ、往古高麗國ヨリ、御舟ニメサレ、當國ヘ御渡リアリ相模國中郡ノ高麗寺山ニ上ラセ給ヒヌ、依之此山ヲ高麗寺ト申ナルヘシ云々）説々一定セス、按スルニ、往昔高麗人、東國七州ニ散居セシ事、續日本紀、（續紀ニ見エタル所、既ニ前ニ詳載セリ、）ニ見エテ、本州モ其住國ノ一ナリ、然ルニ其居住ノ地跡國中他ニ斥スヘキ地ナケレハ、恐ラクハ當所ナルヘシ、サテハ當社モ彼黨カ居地鎮護ノ為、高麗ノ神ヲ勸請セシモ識ルヘカラス、當村及ヒ大磯宿ノ鎮守トス、祭禮ハ毎年三月中澣、（十七日ヨリ十九日ニ至）

ル六月十八日此日大磯ノ濱邊、照曜崎ト云所ヘ神輿ヲ出シ、大磯宿ヨリ、観音丸、権現丸ト云舩ニ艘ヲ出スノ両度ナリ、神人ト呼ヘルモノ十人アリテ神事ヲ務ム、各別當高麗寺領ノ内、各一石宛ヲ配當セリ

白山社　本社ノ右峯ニアリ、高麗三社權現ノ一トス、齊衡年中、圓仁ノ勸請ト云傳フ、永祿ノ兵火ニ罹リシ後、假ノ小社ヲ建、

毘沙門塔　本社ノ左峯ニアリ、三重ノ塔ニシテ、慈覺ノ作像ヲ收ム、是モ三社ノ一トス、永祿中火災ノ後再建ナラス、舊像ハ存シテ今本地堂ニアリ、

平嘉久社、山麓ニアリ、祭ル所庚申ナリ、是ヲ地主神ト云、高良明神、疱瘡神等ヲ相殿トス、

末社、天神、

神輿堂、平嘉久社ノ右ニアリ

神樂堂

地藏堂　延命地藏ト唱フ、長四尺九寸、法橋勘解由作、遊女虎カ持念佛ト云、又腹籠リニ弘法作ノ同像ヲ安ス、是ハ曾我祐成カ持念佛ナリトソ、下ニ載スル棟札ニ見エタリ、古棟札一枚ヲ収ム、左ニ摸スルカコトシ、

相摸國雞足山高麗寺者二王一番神武天皇御時開闢而
欽明天皇御願有造建也于時建久五年九月十三日彫工
法虎妙恵禪尼持佛
鎌倉扇ヶ谷住
法橋勘解由
奉開眼地藏尊
十方刀合
經曰
造作五逆罪常念地藏尊
遊戯諸地獄決定代受苦
南无三宝南无阿弥陀佛
御腹篭祐成殿持尊仏而
空海大師御尊仏也
一和尚
天阿闍梨慈慶敬白

堂内ニ虎カ位牌ヲ置ク、法名、法虎妙恵禪尼、嘉禄三年春丁亥二月十三日ト記セリ

柳虎女ハ建久四年五月、曾我祐成討レシ後、尼トナリテ諸山ヲ巡拝シ、後當山ニ入テ草庵ヲ結ヒ、幽居セシト云、曾我物語曰、虎ハ山々寺々拝巡リケルカ、流石ニ故里ヤ恋シカリケン、又ハ十郎カ在シ邊ヤナツカシク思ヒケン、大磯ニ歸リ高麗寺ノ山ノ奥ヲ尋入テ、柴ノ庵ニ閑篭ルト云々按スルニ此堂ハ其庵跡ナランカ、今詳ニシ難シ、山下村ニ草庵跡ト呼ヘル所アリ、彼村ノ條併セ見ルヘシ、

供所

本地堂 千手觀音ヲ置ク、是高麗權現ノ本地佛ト云 應神帝ノ御宇、海中ヨリ出現セシト傳フ、七年ニ一度開扉セリ

末社 權現社、伊豆箱根ノ兩所ヲ祭ル、稲荷、道祖神、

二王門、

鐘樓 弘安十一年ノ鐘ヲ掛ク、銘末ニ、奉治鑄高来寺鐘一口、大檀那四人、秦有信、内藏光綱、沙彌明法、沙彌蓮光、衆徒二十四人、別當阿闍梨口口、弘安十一年戊子卯月廿八日、大工大和權守物部國光トアリ、光綱及ヒ蓮光カコト、東鑑ニ見ル所アリ、曰、寛元三年八月十五日、将軍頼嗣公鶴岡御参、先陣隨兵阿蘇沼小次郎光綱又曰、仁治三年四月二十九日、毛呂五郎入道蓮光ト載ス、

別當高麗寺、雞足山雲上院ト號ス、天台宗、（東叡山末、）傳ヘ云、昔シ大同年中、役小角初テ當山ニ登リ、兩部垂跡ノ事ヲ里人ニ告シ、後、法相沙門（由來詳ナラス）堂社ヲ開建シ、其後小野文觀僧正中興スト云、此頃ハ眞言宗ナリシカ、何ノ頃カ天台宗トナリ今ニ至ル、客殿ニ千手觀音ヲ置ク、建久三年五月八日、後白河法皇七々日ノ佛事ヲ鎌倉南御堂ニ於テ修セラレシ時、當寺ノ僧徒其事ニ與ル、（東鑑曰、建久三年五月八日法皇四十九日、於南殿堂被修之有百僧供養高麗寺三口）同年八月、賴朝夫人平産祈ノ爲、當社ヘ神馬ヲ牽レ、且當寺ニ於テ

佛經ノ讀誦アリ、（曰八月九日、御臺所御産氣鶴岡相模國神社佛寺、奉神馬被修誦經高麗寺大礒挍スル二十五寺ノ一ナリ、）四年三月、法皇一周ノ忌辰ニ依リ、鎌倉ニオイテ千僧供養ヲ行フ、當寺ノ僧徒又其事ニ與ル（曰、建久四年三月四日来十三日法皇御周闋也、仍被供養千僧之間臨當日各可參上之由被觸仰寺々、俊兼奉行之高麗寺挍スル二八寺ノ一ナリ）永享十年九月、持氏追討ノ時、上杉中務少輔持房當寺ニ陣ヲ取ル、（東亂記曰、永享十年九月海道ノ討手大手搦手一二成リ箱根ノ陣ヲ押破テ、大將上杉中務少輔持房、相州高麗寺ニ陣ヲ取ル、）北條氏ノ頃ハ、六十七貫七百七十文ヲ領セリ、（役帳曰、五十五貫七百七十七文、中郡坂間ニ伏、十二貫文同山下ニ伏云々、以上六十七貫七百七十七文、）今寺領百二十石餘（此内二十

大石ハ除地高ナリ、先規ニ任セ天正十九年賜フ、寛永廿年正月、僧正天海十二箇條ノ掟書ヲ出セリ、日、相模國雛足山高麗寺雲上院、如恒例令山篭、不闕神前之御供、勤行專神事祭禮、不致天下豊饒之御祈禱事、毎月十七日、可致東照大權現御供法味事、令顯蜜仏法相續、蜜者守穴太一流、於山門武東叡山可致受戒開檀事、不遂大阿闍梨者、不可致傳法引導事、縦雖為出世器量之人、於亂行僧者、早可令追放事、背於國司之制法、不可致私檢斷事、企徒黨、不可致公介事沙汰事、背於師命者、縦雖為坊中所化、不可令抱、又雖為我弟子、於不孝輩者、早可令追放事、從山林下草、至坊中神人百姓屋舗竹木等、猥不可伐採事、神領之内走入之者、或雖為緣類知人、牢人一切不可抱置事、御輿舁之神人等、不可闕神事祭禮之出仕社役等事、坊中神人百姓等、別當下知者不及申、不可致公儀之御用、所々之掃除等無沙汰事、右條々可相守者也、寛永二十癸未歳正月十七日、山門三院執行探題大僧正天海判、舊キ書記寺寶等相傳アリシカ、永祿ノ兵火ニ多ク烏有セシト云、當所ハ高麗寺山下ニシテ、樹木繁茂シ最幽邃ノ地ナリ、古クハ山内ニ、中之坊千手坊、閼伽井坊、上之坊ト唱ヘ寺領各三石宛配當ノ僧坊アリシト云ヘト、今ハ廢シテナシ、山中ニ澤ニ流アリ、一ハ瀧ノ澤、一ハ地獄澤ト云、

東照宮　本堂ニ安置シ奉レリ、寛永中、東叡山ニ請テ神影ヲ是ニ勸請スト云、正四九月十七日開扉シテ諸人ニ拜セシム

寺寶

牛王刻板一枚、建長七年卯十二月十八日、高麗寺細工御所獻上定禪坊トアリ

慈恵大師肖像一幅、慈眼筆

定家卿詠歌一帖、十二ヶ月ノ詠歌ナリ

虚空藏堂 熊野社ヲ合殿トス、村民持、別當大磯宿法光院、

高麗寺城跡 今蹤跡詳ナラサレト、高麗寺山上ニ在シコト識ルヘシ、永正七年、上杉民部大輔顯定ノ老臣、長尾六郎爲景主ニ叛キシ時、北條新九郎早雲是ニ同心シ、松田大道寺等ヲ引率シテ、當所及ヒ住吉ノ古城ヲ取立、楯籠リシ事アリ、小田原記曰、上杉ノ家老、長尾六郎爲景逆心ヲ起、永正七年六月、顯定ヲ討取申シケル、小田原ニハ子息新九郎ヲトヽメ、吾身ハ松田大道寺以下ノ軍勢ヲ引率シ、高麗寺山、幷住吉ノ故城ヲ取立楯籠、又上杉五郎憲房、上乘院ニ呈スル古證文ニ曰、伊勢新九郎入道宗瑞、長尾六郎與相談、相州ヘ令出張、高麗寺幷日吉之古要害取立、令蜂起候云々、廢セシ年代詳ナラス

山下村 也末之多牟良 江戸ヨリ行程十六里、山下郷ニ屬ス、高麗寺山ノ麓ナルカ故此名アリト云、天文十二年九月、北條氏ヨリ當所ノ内ニテ、國府新宿六所宮神官ヘ、鍵取免トシテ寄附ノ地アリ、萬田村民所藏文書ニ據ル、其文ハ萬田村舊家ノ條ニ注記ス、永祿ノ頃ハ、大和某ノ所領、北條役帳曰、大和殿、百貫文、中郡山下郷、棟別段錢共ニ云々、及ヒ高麗寺領交レリ、高麗寺領、十二貫文、中郡山下ニ代ス、四年

三月、上杉輝虎小田原亂入ノ時、當所ニ陣取アリ、甲陽軍鑑日、輝虎ハ高麗山ノ麓、山下ト云所ニ陣ヲ取云々、民戸五十四、東西十町餘、南北六町、東高麗寺村、及ヒ大住郡上平塚村、西、本郡萬田村、南、高根村、北、大住郡河内、南原ニ村、今保々監物、高木富太郎、日向主税等知行ス、舊ハ御料所タリ、寶暦十二年、地ヲ割テ保々高木両氏ニ賜ヒ、殘ル所安永七年日向氏ニ賜ヘリ、檢地ハ、寛文五年、坪井治右衛門改ム、延寶元年、同人カ檢地セシ新田二石一斗三升二合、アリ、又寛保三年、齋藤喜六郎カ檢セシ見取新田五石九斗三升四合、アリ、南境ニ波多野道幅八尺係レリ、

高札場

小名 上山下、下山下

花水川、東界ヲ流ル、幅二十五間堤アリ、

住吉川 高根村谷戸澤ノ下流ニテ、當村住吉社邊ヲ流ル、ヨリ此名起レリ、東方ニテ花水川ニ合ス、幅六尺、堤アリ、高六尺ヨリ九尺ニ至ル、

金目川、東北堺ヲ流レ、是モ花水川ニ合ス、幅二十五間、堤ヲ設ク、高一丈、

澤、瀧ノ入澤ト唱フ、南隣高根村ヨリ沃キ、巽方ニテ花水川ニ合ス、幅五間、

悪水堀、北堺ヲ流レ、東堺ニテ是モ花水川ニ合ス、幅九尺、享保二年ノ頃堀割シト云

八幡宮　小名上山下ノ鎮守トス、天正十九年社領一石ノ御朱印ヲ賜ヒ、慶安二年又一石八斗ヲ増、二石八斗ヲ寄附シ賜フ、海音寺持、下同、

末社　山王、

鐘楼　文化十年再鑄ノ鐘ヲ掛ク

若宮八幡宮　小名下山下ノ鎮守ナリ、例祭四月三日

末社、山王

住吉社　例祭六月晦日

末社、稲荷、

神明宮

末社　山王、

海音寺　西光山成福院ト號ス、天台宗、高根村荘厳寺門徒、本尊三尊彌陀ヲ置、慶安二年四石五斗ノ御朱印ヲ賜ハレリ、

十王堂、

山王堂、

観音堂　十一面観音、長二尺八寸五分、春日作、ヲ置、是ハ八幡宮ノ本地佛ト云、海音寺持、下同、

阿彌陀堂

山下長者宅蹟　坤方ニアリ、濶四畝許、今村民等カ宅地ト

ナル、南西北ノ三方ニ土手高八尺許、跡アリ、形ハカリヲ
存ス、長者ノ事蹟詳ナラス、曾我物語ニ、十郎祐成カ
妾虎女ハ、大磯ノ長カ女ト云ニ因テ、爰ヲ彼長カ宅
蹟ナリト云説アレト、全ク牽強附會セシモノニテ
信ズヘカラス、

虎草庵蹟 長者宅蹟ノ傍ニアリ、建久四年五月、曾我
祐成討レシ後、大磯ノ虎尼トナリ、此所ニ閑居セシ
ト傳フレト、既ニ曾我物語ニハ、高麗寺ノ奥ニ籠リ
シト云ヘハ、其地方大ニ違ヘリ、サレト此所モ高麗
寺山下ナルカ故、地名トナルト云ヘハ頗テ曾我物
語ニ云所モ全ク此地ナルニヤ今詳ニシ難シ、高麗寺村高麗權現社地藏堂ノ條併セ考ヘシ、

文塚 村民宅地ニアリ、今塚ハ崩レテ小社ヲ建ツ玉章明神ト唱フ、虎女祐成カ贈リシ文ヲ瘞メシ所トソ、又此
邊ニ灰塚ノ字アリ、彼文ヲ火燒セシ跡ナリト云、

高根村 太加禰年良 江戸ヨリ行程十六里、山下郷ニ屬ス、戸
數十七、東西十町、南北四町、東、高麗寺、村西萬田村、南大磯宿、北山下村、今保
々監物知行ス、古ヨリ御料所ナリシカ、寳暦十二年保々氏ニ賜フ、檢地ハ、
寛文五年三月、同十年四月ノ兩度ニ、坪井次右衛門

改ム、北境ニ波多野道係レリ、幅八尺高根山、浅間山ニ秣
場総テ一町九畝十歩アリ、又貝山ニ茅野二段アリ、各代永ヲ納ム、

高札場

小名 上高根、下高根、

山 高根山、貝山、浅間山、登各二町許、等ノ名アリ、共ニ南方
ニアリ、

澤 二一ハ谷戸澤ト云、幅五尺、浅間山字神澤ノ下流ナ
リ、一ハ瀧入澤ト唱フ、幅五尺高根山ノ裾ヨリ流出ス、

岩分明神社 鎮守ナリ、本地佛不動ヲ安シ、神明天王
ヲ相殿トス、例祭六月十五日、古松樹四十株圍五尺ヨリ八
尺ニ至ル、アリ神木ト唱フ、龍福院持、下同、

末社 天神

鐘樓 正徳三年鑄造ノ鐘ヲ掛ク、

別當龍福院 靈格山毉王寺ト號ス、天台宗、荘嚴寺門徒

本尊地藏

浅間社

荘嚴寺 叙光山寶藏院ト號ス、天台宗、武州入間郡仙波中院末、本
尊地藏長二尺、行基作、ハ、縁起ニ據ルニ、大磯ノ遊女虎カ持
念佛ニテ、其昔此邊ニ小堂ヲ營ミ安置シケルカ、天
正小田原ノ役ニ堂地モ荒蕪シ、年ヲ歴テ頽廢シケ

レハ、慶長十一年當寺ニ移シテ本尊トスト云、開山基詳ナラス、第二世ヲ恵海ト云、貞觀元年三月廿八日寂ス中興開山豪觀、天祿十二年三月廿八日寂ス中興開基溝口筑後室ト云、法名修善院揚譽利稱敬心卒年月傳ハラス、寺領十五石ノ御朱印ハ慶安二年八月賜フ、

寺寶

鎗一筋、無銘、長三尺、曾我十郎祐成寄納セシモノト云

長刀一振無銘、長四尺、五郎時宗カ納シモノト云

鐘樓　元祿十三年ノ鑄鐘ヲ掛ク、

藥師堂　運慶ノ作佛、長六寸、ヲ置ク、龍福院持、下同、

釋迦堂

萬田村萬年駄無良　江戸ヨリ行程十六里、山下郷ニ屬ス民戸六十、東西十二町餘、南北九町餘、東山下村、及ヒ大住郡河内村、西、本郡寺坂、出縄、二村、南、大磯宿及ヒ西小磯、高根、二村、北、出縄村、及ヒ大住郡根坂間村、北條氏ノ頃ハ、須藤總左衛門領セリ、役帳日、職人衆、須藤總左衛門、百貫文中郡萬田、今榊原十右衛門、榊原市之丞、日向主税、白須甲斐守政德、等知行ス、御入國已後御料所、慶安中、松平備前守隆綱カ領知トナリ、後御料ニ復シ、安永七年、日向氏ニ賜ヒ、其餘文化八年、白須氏ニ賜ハレリ、榊原両氏ニ賜ヒシ、年代傳ハラス檢地ハ、文祿三年ノ後、慶安三年、松平備前守隆綱糺セリ、

又寛政六年江川太郎左衛門英毅新田一石五升八合五勺ヲ検入、波多野道、幅九尺、伊勢原道、幅六尺、村内ニ係レリ、秣場六町八段七畝五歩泡多羅山ニアリ、又笹山ニモ四村當村、及ヒ大磯宿、東小磯村、西小磯村入會ノ秣場三町四段九畝三歩、アリ

高札場三

小名上久保、下久保　小向久保　ヌカ田窪

山西南ニ連ナル、泡多羅山、登五町餘、中腹ニ小池アリ、名義土人ノ傳アレトモ、トルニ足ラス、此山大磯宿、東小磯村ニ跨カレリ、瀧山、登三町許、笹山等ノ名アリ、

林瀧山ニアリ、六町六段八歩地頭三給ノ雑木林ナリ、

谷戸澤　東方ヲ流ル、幅六尺

愛宕社　鎮守トス、脇立二體アリ、是ヲ奇ノ宮明神ト號ス、縁起略曰、往昔此山ニ何地トモナク、翁婆二人來リテ住ル事久シ、其形容尋常ノ人ニアラス、或夜此山ニ光明赫々タリ、村人行テ見レハ、二人ノ翁婆ハアラスシテ、勝軍地藏ノ尊容一躯アリ、今ノ靈像是ナリ、依テ山ヲ愛宕山ト號シテ鎮守ト崇メ、二人ノ翁婆コソ奇滅奇異不思儀ナルト云、奇ノ宮明神ト云ナリ云々、

例祭六月廿四日、大泉寺持、下同、

末社、神明、春日、稲荷、

王子權現社　小名上久保ノ鎮守ナリ、例祭六月十五日、

末社、稲荷、

辨天社小名小向久保ノ鎮守トス、傍ニ池アリ、十間ニ大間例祭四月上巳、老松樹アリ圍一丈六尺神木ト唱フ、高根村荘嚴寺持、下同、

藏王社　是モ小名小向久保ノ鎮守トス、例祭六月十五日

末社、稲荷、荒神、

大泉寺　無縁山玉城院ト號ス、天台宗高根村荘嚴寺末開山慶了、寛文二年正月二日寂ス、本尊釋迦

阿彌陀寺　阿彌陀山來迎院ト號ス、淨土宗二ノ宮村知足寺末、貞享元年四月ノ起立ナリ、開山凡愚、樂蓮社信譽ト號ス、貞享三年六月二日寂ス、本尊彌陀、長一尺五寸、惠心作、

藥師堂　村持、

舊家慶藏　往昔ヨリ、國府新宿六所宮ノ神官トシテ鑰取役ヲ勤メ、社領ノ内ヲ配當ス、即職名ヲ出縄主水ト呼ヘリ、職務ニ與カル事ハ、總テ六所宮別當眞勝寺進退スト云、又大住郡四ノ宮ノ在廳役ヲ兼、又役料トシテ、四ノ宮別當ヨリ麥三斗ヲ贈ルト云フ、天文十二年九月、北條氏ヨリ鑰取免寄附アリ、其文書今ニ藏ス、曰、山下郷寺山之内、田一段同畠小、國府六所爲ニ鑰取免一令ニ寄進一候、但此田之内十歩之年貢可レ出者也、仍如レ件、天文十二卯九月吉日、寺山清三

郎殿、松田大郎左衛門尉、中村小四郎、各華押、宛名寺山清三郎トアルハ、即
祖先ニテ、此頃ハ寺山ヲ稱セシト傳フレト、其實ハ
祖先ニアラス、別人ニテ、後此家ニテ彼神官鑰取役
ヲ相續セシモノナラン、故ニ此古文書モ傳來セシ
ト識ラル、文祿三年及ヒ慶長中ノ水帳ニ、六所宮社
領ノ内、中畑二段歩、主水ニ渡スヘキ分ト載セタル
ニ據レハ、天正ノ末文祿ノ始ノ頃ヨリ相續セシナ
ルヘシ、

出繩村以泥奈波牟良 江戸ヨリ行程十六里餘、民戸四十二

東西十一町許、南北八町餘、東南、萬田村、西、寺坂村、北、大住郡根坂間村、北條
氏割據ノ頃ハ、須藤惣左衛門領ス、役帳曰、職人衆、須藤惣左衛門千貫文出
繩之内云々、以上二百貫文、此内六十一貫三百五十八文、出繩郷御細工御用錢ニ御預ケ今倉橋總
左衛門知行セリ、御入國後、御料所ナリシカ、寛文三年、稲葉美濃守正則ニ賜ハリ、
其後倉橋氏ニ替賜フ、檢地ハ、寛文五年稲葉美濃守正則改ム、伊
勢原道南北ヲ貫キ、波多野道東西ニ亘ル、各幅九尺、

高札場

小名 待場臺南方蓮大寺御朱印地ノ所ヲ云、慶長中東照宮中原筋御放鷹ノ時、住僧是ニ
テ待請奉リテ、御朱印ヲ頂戴セシニヨリ此名アリト云上久保、下久保、根
岸、額田、

木塚川東南ヲ流ル、幅三尺許、此餘北境ニオ戸川ト唱フル小川アリ、

粟津明神社 鎮守ナリ、祭神詳ナラス、甲冑具足ノ像ヲ神體トス、例祭六月十五日、元和八年寛永十四年、寛文八年寛延二年ノ棟札アリ、村民吉兵衛カ家ニ藏ス、幣殿、拜殿立續ケリ、社領一石五斗ノ御朱印ハ、天正十九年賜ヘリ、蓮大寺持、

末社 三島

子神社 稲荷ヲ合祠ス、村持、下同、

辨天社 傍ニ池アリ、段別一畝餘、

蓮大寺 妙法山常住坊ト號ス、法華宗、身延山久遠寺末、天文五年ノ起立ナリ、村民吉兵衛カ家傳ニハ天文六年本寺日傳ヲ請シ、當寺ヲ開基スト傳フ、開山日傳、本寺十三世、天文十七年十二月十一日身延山ニテ寂ス、本尊三寶祖師ヲ置、寺領十石ノ御朱印ハ、慶安二年賜フ所ナリ、境内ニ村民須藤氏代々ノ墓所アリ、

番神堂 七面ヲ相殿トス、

地藏堂 行基ノ作佛、長二尺五寸、ヲ置ク、大住郡馬入村高福寺持、

觀音堂 正觀音ヲ置、大住郡根坂間村寶珠院持、

舊家吉兵衛 須藤氏ナリ、永禄ノ頃須藤總左衛門當

所ヲ領セシ事、北條役帳ニ見エタレハ、其子孫ナルニヤ、今村内蓮大寺ニ、一族ノ墳墓多ク見ユ、天正ノ頃、和泉守盛次ト云、十四年八月盛次ニ授與セシト云、日新筆ノ曼荼羅ヲ藏ス、又村内粟津社元和八年、寛永十四年、寛文八年、寛延二年、等ノ棟札ヲ藏セリ、